

# 出定笑語

一

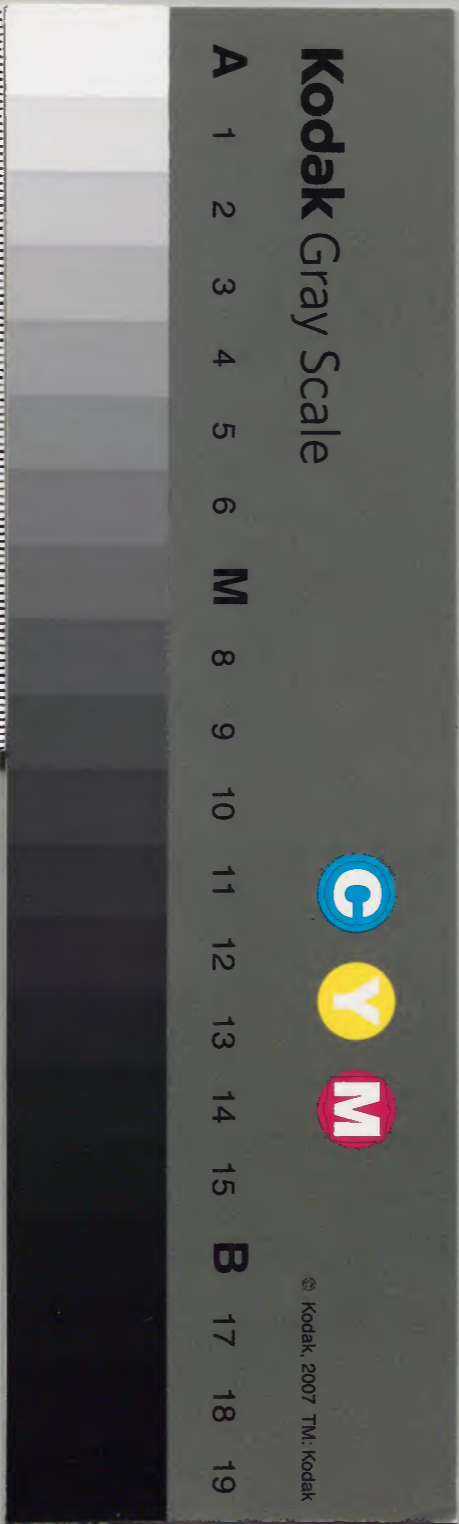
			和
		一八	書
		三	門
		一	
四	八	函	類
冊	架	號	

560

庫	文	閣	內
九		一八	和
函		三	書
二		一	
一	四	冊	類
架	冊	號	

內閣文庫	
番號	和 18131
冊數	4 ( 1 )
函號	193 560

193-560



活板

# 平田篤胤先生講本

此書ハ謂ゆる一切経蔵と探索して天竺國の風土國初より  
婆羅門の教より又も釋迦一代の本説佛道と作為しる所以  
及び諸佛經一部を釈迦の傳へる真乃ものありて後入る

# 出定笑語合卷四冊

依托ふる所以よりその道儒土を経て皇國より傳りり十宗に  
よりれりる所以おのくその宗旨よくの立方佛道乃大意を  
知るに也此書ふおよふものあり

百部碎板

坐摩宮祝部

菑園

活字板出定笑語序

天地遠隔之極千萬と國の雖多今現に天地八方り

照徹大座より天照皇大御神の天日嗣乃玆大御子

照徹神吾大王此弥嗣續に知行あるの大御國也神

漏岐神漏美尊の天賦より入る高貴明清直正清清

俗に迷惑ひ隠まにしるを神風の伊勢國の御良本

居翁甚く慷慨歎息憤激ていりて此隱にしる大倭

魂を顯してむといひるいにてさへはるや漢の手風俗の

淺草文庫

193-290

猿に倭好言甚くて大御国の禍と形まるしてハ明白に  
私別ワカ別ワカもたれど不須也凶目汚穢シコメキタナ佛道ナカフミチも大神  
等タチ忌イミも嫌キラふもふも少イサナも知チりて精神ココロは  
類タチも直悪ヒタニクミに悪ニクむものか其論シラフクは夕月夜ユフツクお月  
づつふりて不足アカヌさうもれを百不足出羽国乃  
御民ミタ小篤胤フタタ子ノ無比イカクフツクタケク重太健雄シラ々々大倭魂オホ  
振起アツキして宗ムネとらる書シラやも著ツクるものもいとよま  
いさるに諸人シロヒトの解得サトリエをさく俗語サトヒゴトもてものもいさ  
この書シラ々々此大坂小御宇コミコの年號ナシと延享ニョウキョウと申

一ちい富長仲基トモノやい一人出定後語といへるよ  
書カキて佛道ナカフミチ明アカくかよ論アケツラいさるを本居翁ホンイニうらうて議  
さるも論アケツラい定ちたり彼道カミチの學問マナビに長タチしる法師カミナガだ  
えやはかくものもいさるも讚ホメ歎メおるわさるいさるい  
さるわさるいさるいさるいさるいさるいさるいさるいさるいさるい  
此書林フミノキヒトに求モトむもいさるいさるいさるいさるいさるいさるいさるい  
もやちいで讀ヨミ明アカくも解サトリ明アカくもてわさるいさるいさるいさるい  
ももかほくもてものいさるいさるいさるいさるいさるいさるいさるい  
惠人シラビト天然ニシラに生アいで彼国カクニは神隨カミナガラとられ古風フルカをさる

つく自己オノが私ワタシの邪道ヨコサマをいふもくもくもそのくもくは更  
 しくもいふ漢國カンクワクは此大御国オホミミクニまで幾千年イソトシの  
 千萬マンナの人は常闇トコヤミ如惑カカハ一もせんさるは如此夜カクの開アケ  
 らるる如く曇クモるる論ロン定テイ多タなる無比タシヒナク愛イ甚シ此書コノシヤ  
 なるも眞實マコトに珍寶ウツクミタカラなるかる寶タカラなりてたまふも  
 寫本シヤホンにさすの志ココロザシはるるやにいろくもあさんといふ  
 かす活字ウキモノ板書イタガキにりてこそと東雄オウユウ主ヌシかくりといふ  
 はたのれおれどくはるも權チカラしるといふといふ  
 斯書コノシヤ自今オノイマノチ以後ノチ漸ヤくク青雲アヲグモの西謁タチヒケ隈サザリ谷ヨニテ蝮ツクシのさわ

極山キハミの奥島ウミ乃ナリ寄々サキおつる隈クマもく天下アマノ四方シタヨモの国  
 たり弘ヒロりりて公民オホムタカラもろく佛道オホテラシチの眞マコトに神カミの厭イヤヒま  
 たるも宜理ウヘコトヨリともりやささりいりて悔クタイの八千ヤチ度タビ後ク  
 悔憤クタイ激キツクていりて千年チヨウネン餘アハリ迷マダヒ惑マダヒ汚穢ケガレたる心の垢アカ  
 をいそりくもやうく掛カケくもかたりぬるも神祖カミノソコの  
 尊ホトの橘たちばなの小門コト乃ナリ阿波アハ岐原ギハラに襖被ムシキハラヒたる事コトは  
 ぐく拂ハラフい清スガりて清スガ々々も元タチの大倭魂オホヤマトは復カヘし  
 たるものや掌タナコ拍ヒキたるもて猶オホ言コトけくも公オホ翁トシは  
 ちんチン勲イササ功イササはるるも深く遠トホシクくおもひめぐ

文政無師し  
有るは  
しむべし

くもぐらふも九天神地祇八百萬千萬神等此  
大御心也甚貴く<sup>イトタテ</sup>か<sup>カク</sup>ド<sup>ナ</sup>を<sup>カク</sup>く<sup>カク</sup>す<sup>カク</sup>ん<sup>カク</sup>嗚呼か  
斯<sup>カク</sup>云<sup>カク</sup>ハ大御代の號と嘉永貳年と申<sup>カク</sup>ッ  
カ<sup>カク</sup>八月十日<sup>カク</sup>ら<sup>カク</sup>り<sup>カク</sup>み<sup>カク</sup>く<sup>カク</sup>日

座摩宮社務

從五位上近江守都下朝臣資政

出定笑語一

叔是ハ出家笑語ノ大意テ演說致ス<sup>一</sup>ハ先第一ニ天竺  
ノ國ノ水土風俗ヨリ致シテ其國ノ始ノ傳説由來マタ  
釋迦一代ノアラマシマタモロ々ノ佛教一部ニ冊トシテ  
釋迦ノマコトノモノテナク殘ラス後人ノ記シタルモ  
ノナル慥ナ論辨サテ佛法カ諸越ヘ傳リ夫ヨリ御國ヘ  
ツタハツタル<sup>一</sup>ノアラマシ御國ニ有所ノ諸宗ノ始リ才  
ヨヒ其宗旨々ノ立カタサテ佛法ノ本意又當時世ニ才  
ル者ノ佛法ノ心得カ<sup>タ</sup>ナトノ事ヲ申スノテム但シカ  
カ師ノ翁ハトカク漢學ヒノ人心ヲサクリテシタ<sup>ハ</sup>メ

出定笑語

ワルサカシクニ致ス一チハ返スマサトサレマシタナ  
レトモアマリ佛法ノコトチイハレスタ、聊ハカリ佛  
ノ道トイフモノハ世ノ女ワランヘチ欺クカ如キコト  
ナレハ論ニモタラヌモノシヤナト、イハレタツライ  
ナコトマタ「釈迦といふたおそびとのおそことふねを」と  
「人ほどの」とマタ「佛書よるおかり」といひ  
ひとりり〜ひもさ〜さるるる〜コレハ實ニ左様ノワケ  
テ有ナレトモ今ハカヨフニ行レテ至ラヌクマナク世ニ  
有トアル諸事諸道何ニ不依其意ノ混雜セヌ事モナレ  
ヤウテ夫ヲヨクシラケワケ子ハ真面目ノ見エカヌル

一カ多イニヨツテ其根本ノワケモ心得子ハトフモナ  
ラスツレ故ニアラマシナカラ其佛道ノ真面目チアリ  
ノマ、ニ申スノテム但シユノ佛道ト申スモノハイト  
チサナキモノテ有ナレトモ其推キ處カ人氣ニ叶フト見  
エテ世ニ信シ人モ多イカラコレハ甚タ申ニクイ事テ  
ムナセナレハハノ信メオル人ハミナ佛者ト爲ニ計  
フレテ實ハ佛者共カヨキサマニトリ禪ヒテ其誠ノ事  
チ云ヒ聞セス鈇ヲ銀シヤトサトシオクイチ知ラス其  
聞添タルツラ言ヲ信シテユノ方カ佛經ニヨツテソノ  
止實ヲ云ヒ聞スチハ佛法ヲ謗ルナト、心得以ノ外ニ

腹ヲタツテム正實ノワケチイフチハ必ズ心得坊  
主ノツラ言ヲハ眞ト信シオルトイフハ備々迷ヒト云  
者ハシカタノナイモノテムコノ佛法ノ眞實ヲイツタ  
ナラハチコル人カアラフトイフ事ハ云ヌマヘカラコ  
ノ古モサシ心得アオツタルユヘニ實ハイフマイトサ  
ヘ思ツタナレトモ云ハンテハ一カワカラヌト先年モ  
心遣ヒチツツハイツタ所カ果シテ一席ニ席キイテソ  
レチ氣ニサヘタル人ナトモ兩三人アリマシタ此方ノ  
イフ所ハ謗ルト云フモノテハナイ眞ノ所チイフノシ  
ヤカ夫程ニ心遣ヒオシテノ演説チソシリト聞取ルハ

扱々白ヒ黒イノ分ラヌト腹サヘ立ツタテムコレハ  
譬ハ出家ノ輩ノ云處ハ澁柿ヲ甘イト云テ人ニタマレ  
クワセテチクヨウナ物々カ其澁柿ヲヨヒ氣ニ成テク  
ヒカレテ居タル人ニソレチ氣ノ毒ンヤト云テ眞ノ甘  
柿チクハシテモトシト喰ヌソラ澁柿ニクヒナルテケ  
ツクソノ甘カキチハ顔チシカメテクハヌヤウナモノ  
テムワカ鈴ノ屋ノ翁カヨマレタル歌ニ佛ガ神ノ世人  
の耳りやうごらんやまことうらぬらん人のちをこト讚  
レ通リコトヤ被古道ノ大意ニアラヤ申タル如ク神  
ニモ善惡邪正様々有カ其アシク邪シマナル神ニマシ

コレレ耳ヲフダカレ真ノ事ヲキクコナラヌ人々ト見  
ユルテム釈迦ノ縁ナキ衆生ハ度シカタシトイツタノ  
モカヨフノ人々ノ事テモ有マセウカ其クセ出家ノ方  
テ云所ハ御國ノ神ヲハ佛法ノ下役ノユトクイヤシメ  
テアルカソレヲハ何トモ思ハンテイルテム抑古ヘノ  
神クハ天地ヲサヘニヲタリアツハシタル程ノ事テ  
カツハ恐ルナカラエハ、自分ノ先祖ニヤカソレヲハ  
賤メラレテモ何トモ思ハス釋迦ハタトハ真ニ尊キ者  
ニモシコ外國ノ入シヤモノヲソレヲカシユクワカ先  
祖トモ身ノ本トモマシマスワカ國ノ神ニ見カヘテ又

ナギモノニ諦ヒツカユル伝ハチヤウト我君我親ヲス  
テ、他人ヲ尊ミ其他人ヘノ諦ヒカ有ツテカヘサマニ  
我カ君ワカ親ヲソレラレテモ何任思ハス且トモ々我  
カ君ワカ親ヲソシリタマサカ自分ノ親ヲ尊メト勸ム  
ルノヲサヘニ憚ムヤウナモノシヤカヘス々モ儲々世  
ニハサカサマナ心ノ人モアレハアルモノト覺ハス肩  
テ息ヲスル程ノ事テム然レモソナ邪ナル人ハ夫ニ  
シテオイトトウ考ヘテモ佛法ノ事モ云ハ子ハナラス  
イテヤ云フトナツテハモハヤ彼ノヌレヌウチコソ露  
ヲモイトヘカヨウニ迎モヌレカ、リチハア、儘ヨシ



ヨ事カナイトアキラメテ説ハ致サシカソノ正實ト云  
ツテ佛法ノマコトノ所チアリノ儘ニツクロハス飾ラ  
ズ竹ヲソツタル様ニ説マスカラ何レモノノオコ、口  
エテ必ス腹ヲタ、レヌカヨイサテマ々別段ニ申ス事  
カアルソレハ古ヘヨリ伎那ヤマトフモノモカ我オト  
ヲシト生コシヤクオヤタラ云テ佛法ヲ論辨誹謗ヲ致  
シタナレトモミナ佛書ヲヨク見ス聞ハツリ見ハツリ  
テカノ胡升丸吞トカイフ様ニ只々大キナ聲ヲシテイ  
ツククライノ事テムソレ故イヒアテタト見ヘル論ハ  
甚タシトスクナイテムスヘテ論辨ト云フモノハ我

カ家ノ説ヲ以テ申シテハ先承知ハ致サヌモノテム是  
ハ蘇子由ト云漢人ノ申タル語ニ善與人言者因其人之  
言而爲之言則天下之辨者服其與里人而曰吾父以爲不  
然則誰肯信以爲爾父之是云々掃夫異端而終以不明者  
唯不務辨其是非利害而以其父屈人也ト申タカ誠ニ尤  
ナイヒカタテム夫故拙者ノ諸道ヲ論辨イタスニ儒道  
ハ儒書ヲ論シ佛道ハ佛書ヲ論辨イタス事テムコレハ  
スヘテ何事ニモ其本ヲ知テ論スル時ハ向フヘマハツ  
タモノハ何トモ云フ出来ス又本ヲキメサヘスレハ先  
ノ枝葉ノ事ハ何コトモワカリカヨク事ニヨツテハ本

ヲサヘニヨク取極レハ末ハイハスト聞スト自ラニワカ  
ル事モ多イカラノコテムタトヘハ鼠ヲツラマヘルニ  
足マ尻ツホチコハタニツラマヘテハ振返リテ喰ツキ  
モスル所ヲ胴腹カ百筋ノ所チキユツトツヨクヒシキ  
ツケルト喰ツクコトモ出来ス其中二目玉カトヒ出ス  
ヨブナモノテム夫故コソ方ノ演説ハ余リコマカシキ  
コトハイ、マセンカラソノコマカシキコトハツレニ  
准ヘテ知ヘキコテム  
依マツ天竺ノ國ハ誰モ知テノ通り御國カラハ漢土チ  
隔テ、西ノ方ニ有國テスナハチ西洋人ノ五大州ト名

ツケタル其第一ノ亞細亞ト立タル州ノ得テムサテ其  
國カラソトハ世ノオユ人トモハ何カ結識ナ國ノ様ニ  
心得違ヒヲシテ居ルケレハ實ハモロコシヨリモマタ  
餘程ワルイ國テム然ルチ坊主トソレチヨサマニト  
リチシテ云フハトウシタフシヤト云フニコレハチヤ  
ウト漢學者ノ何モカモ漢土カヨイト眞實スルト同シ  
事テ自分ノ業トスル道本尊釋迦法師カ本國ユエ取リ  
繕ヒテノコテム又中ニハ實ニ天竺ハヨキ國レヤト心  
得テイタ僧モ昔カライクラモアツタ事テム夫テカ言  
胸タコトハモノ世ニ弘マツテ尋常ノ學問セヌ人チト

定笑記

六

ハトシト誠ノコト心得タモノテム中ニ甚シキハ天竺  
チ天千ヨクト覺ヘテ直ニコノ昔クミヨル空ノ事シヤ  
ト心得テ段々朝鮮カラ漢土ヘツレカラ行内スレハ行  
レモスル事ノ様ニ心得テ居ルモノモ多クヘラホウニ  
ハアルテム今證據正シク彼國カラノ事チマツヌフテ  
△サテ佛法ノワケチトクノミニテソノ國カラノコト  
ハイラヌ様ニ思ハルハ衆モアルタロウカ一殊國ノ  
道トイフモノハ其國相應ニ組立タル事カ多キ故ツノ  
國風ノワケモ心得テ居ラヌトワカラヌ事モ受ヒニ難  
イコシヤト思フ様ナワケモアルモノテム夫故アラタ

申スリテムサテ撮ト致ノ申ヌモノハ大唐西域記伝フ  
モソテ此書ハ漢土テ唐ノ代トイツタ時分ニソノ二代  
目ノ太宗トイフ王ノ貞觀二年トイフ年皇國ノ舒明天  
皇元年ノ八月ニ玄奘法師伝フ僧カアリテ佛法テモイ  
ハユル大衆伝フ高イ所カ傳ヘタシトイツテ漢土ヨリ  
何千里ノ難所ヲコヘテ天竺ノ國ヘ至ツテ國中悉クア  
ルキヲ搜シコトヲ見タリ聞タリシタル國風體ノ事  
ヲ具ニ記シ來テサテ同十一年正月ニ本國ヘハリテ  
取テ歸ツタ處ノ佛法ハモトヨリ今ノ國風體ヲ記シ  
來リタル書ヲ其王太宗ヘ奉シタカ夫カユノ大唐西

域記テム此功ニヨリテ佛法ノ方テハ規模トノキツク  
重ニスル處ノ三藏伝フ位ニナツタ故ニ世ニ此僧ノイ  
テ三藏法師トイフテムナント夫程コノ入カ佛心信テ  
誠ニ嶮阻艱難千辛萬苦イフニ云レヌ程ノ難義ヲシテ  
天竺ヲアルヒテ佛法ヲ受ケ来リソシテアクマテ佛ヒ  
イキ伝其佛ヲ本國ノ事シヤニヨツテトウモヨクイハ  
タクツテチラナンタラフカトウモサウハ云ハレヌワ  
ルイ國シヤニヨツテアリノマヽニ書クト見ハルテム  
ヨツテ彼國カラノ事ヲ見ルニハ是ホト慥カナルモノ  
ハナイニヨツテ其西域記ニ玄奘ノ書テ置タアラマシ

チカイツマシテ云スノテムマツ天竺ノ異名ヲ身毒  
マタ印度用イフ印度伝フハ天竺ノ詞テ八月ノユトテ  
彼國ノ國形カ北ハ廣ク南ハ狭クテチヤウト半月ノ形  
シテイルニヨリテ國ノ名チ印度トイツタモノテム西  
洋ノ入ハインテヤ又インナイヽン又インナヒヽンナ  
ト云俱ニ言ノ轉謬ツタノテムサテ右ノ如ク月ノ形ノ  
イル伝ノ心チ以テ漢土テハカノ國チサシテ月氏國ト  
モイフテム  
西域記ノ一説ニイハク印度者言諸群云々故謂印度  
トイヘルハ後人ノ石ノ出タル説ニテ信スルニ足ラ

ス本文ニ取レル説ヲ正トスヘシ  
サテ漢土ナトヨリハマタヒトカサ廣ヒ所テ東西南北  
中ト五ツニワケテコレヲ五天竺トイフソレヲ又潮カ  
二分ツテイル采覽異言ニ引ク萬國傳信記事ニ云ク西  
ハヘルシヤニ界ヒ北ハ韃靼ニ連リ東ハ支那ニ至リ南  
ハ印度海ニ臨リトム備其風土ノ一ハ阿蘭陀ノ方ヲク  
ワシク考ヘヨク見極メタル天文地理ノ説ニヨリテ見  
ルト天ノ度数テチヤツト赤道線ト云テ日輪ノ御通ナ  
サル道ニ近ク己ニカノ國近クノ嶋々ニハ赤道ノ直下  
ニアタル嶋モアル程ノ一故次ノ熱國テム夫故采覽カ

一年ニ三四度モミノル草木モ四時イット云フナク華  
カ盛タリ實カナツタリスルソレ故西洋人ハ此國ヲ天  
ノ下ノ華園トイフ伝フ采覽異言ニ見ハテアリ又沈香  
ヤ丁香胡椒ナトトタタクヒ香氣ノ高キモノ、出來ルト  
イフモ熱國故ノ事テム人間モ殊ノ外下品テ熱國故ヘ  
國人カミナ黄黒クイハ、土氣色テモツトワルヒ色サ  
シシヤ伝フ事テム西域記ニ天竺ノ一國々ノ風俗ヲ記  
ス度ニ顔色蒼黒伝フ事カ幾所トモナク云ツテアルハ  
コレ一テム又采覽異言ニモ土人色或ハ黄ナルアリ  
或ハ黒キアリ伝ツテアルステニクロンホ國ト云モ

コノ國ノ俗テ則チ釋迦ノ生國迦毘羅衛國ノ西南ノ界  
ニアル國テカノ峴輪ト云フ州カソレテム天竺人ノ黑  
キ中ニニコノ崑崙ノ國人カ別ノ黒イニヨツテ西洋人  
ハヌヘテ色ノ黒キ人ヲニコノ崑崙ノ人ト云フテム御國ニ於  
テクロンホ伝フコノ言ノウツリテム釋迦ノ生國  
ハコノ隣シヤニヨツテ其黒キコトハ同シ事テム熱國  
故ニチ黒イノテム又西域記ニモ時特暑熱地多泉濕ト  
云テアルコトクトカク暑熱ノ烈シキ國ハ濕氣モ又強  
キモテ夏物ニカヒノ生ルテモ知レルチ熱氣ニムサレ  
テ色ク惡シキ虫獸モ多シワルギ病ヒモアルサテ家ノ

住居方ナトモ上下ノアメリ隔カナイカトカクチ、ム  
サキ事氏カ多ヒ其中ニ變ナコトチスルハ地ニ牛ノ糞  
ヲ塗リソレヲ清淨タトシタモノテソノ是ヲヌル心ハ  
牛ノ糞ハ日ニ照ツケラル、トフト嗅テハ麝香ノ様ニ  
ニホウカラノ事ト見ヘルテム夕時々ノ花ヲ取テマ、  
キ散ス事モアル衣服ハ裁製チセス潔モセス白キヲヨ、  
シトシ横巾ノ儀ニ男ハ腰カラ巡ラシ腋ノカタハマト  
ヒツケ右ノ肩チヌイテ居ル女ハ衣ヲ襜ヒテ下ニ垂レ  
テコレハ肩チモ隠メイル髮ハ中ニ結ヒ餘リヲハ垂下  
シ國王ヤ大臣ナトハ首ニハ華鬘伝ノモノヲカフル又

寶冠伝フモノモカフル則觀音ナトフカフリテイルモ  
ノカソレテム身ニ纓絡ヤ環ニ孔雀ノ尾ナトチツケル  
モアルケレヒ王家ノ次ニタツ婆羅門ナト云フ家柄ノ  
者ナトニハ死人ノシヤレカウヘヲカサリニスルモノ  
モチクアルトノ事テムマタ耳タフヘ穴ヲアケテ環  
チカケル造摩ナト云フノ環カソレテム又悉ク入カ  
徒跣テアルク履物チハキアルク者ハトントナイ伝事  
テムイカニモ諸ノ佛ヒニ履チハキタルノハ見タカ  
ナキテムマタカラタニハ白檀ヤ鬱金ノ類ヒ諸ノ香チ  
ヌルコトテムナセサウスルト云フニ濕熱ツヨクムサ

ルカラ自然ト彼國人ハ體カクサイカラノイテム又髮  
縮ンテアルハモ熱國ユヘオノツカラチムノテム又  
釋迦ノ生國迦毘維衛國ト云ハ印度ニアル一ツノ嶋テ  
メクリガヤウニ三百六十餘里衛國ノ六ト云事テム是  
チセイラシト云テム増釋采覽異言ニ此嶋ハ去赤道北  
方四度ト有カラ別シテ燒ルヤウテム則釋迦ノ修行シ  
タル靈鷲山トイフ山カ有テ古跡モ存シテアルソウテ  
ムサテ此國ノ近頃ノ風俗チ采覽異言ニヨリテミレハ  
玄非法師カ渡タル時分トハ余程風俗モ移リテ男子ハ  
上身赤專圍布手中加以厭腰鬚並滿身毫毛皆剃去

○此定英語

止留其髮用白布 首女人者 後不圍白布其新生  
小兒則剃頭女則 後不剃云々若欲人喫飯則於圍所漚  
食不令人見ナト、有カラ大キニ風俗モカワツタテム  
又面白イ事ノアルハ此國人力大便シテモ溺シテモ其  
アトテ前陰モ肛門モ是非アラフト云々西域記ニ有マ  
スカ是ハ今以テ其風俗カ遺リイテ釈迦カ生タルカヒ  
ラニ國ハトクニ其子孫モ亡ヒ今ハ彼コシロンホフ國  
ト共ニ阿蘭陀ニセシメラレテ佛法モ大方亡ヒ切支丹  
宗ニナリテシマツタル故長崎へ來ル阿蘭陀人力召仕  
イニイツモ彼クロンホチツレテ來ルナセナラハ人力

才口カテ至極骨ヲ惜マス働ク故シヤナニ事テム扱  
其阿蘭陀人ノ連テ來ルクロンホメカ今以テ昔ノ通り  
大小便ノアトテヤハリ尻ヤ前陰ヲ洗ヒオルコレニツ  
クテ面首キ咄カアル先年來タクロンホメカ已レカ子  
僧クロンホチ連レテキタソウテム所カ二三年モ長崎  
ニ居ルウチニ其子僧カトカク皇國人ノ眞似チスルソ  
コテ其親クロンホカ叱ツテ云フ事ニハ已レハ其様ニ  
日本以テマ子ナシオルカ後ニハ尻モ濯キオルマヒト  
云々ト云事テム成ホト一言モナイテムサテ其況フ器  
ハ壺ノ様ニコシラヘテサケテアルクコレテ彼ノ黒ンホ



ノ國へ歸ル時ニ捨テ行クニメウナ厄カ形子ノ喪ナ物  
故ニ好事ナ輩ノ拾ツテ庭へテモ置タリ彼是年ヲ經ル  
ウチニ江戸ノ茶人十トノ手ニ渡リ江戸ノ人ハコソナ  
物トハ露モシラス其形ニホレテ自慢ト辯へ床へ直ノ  
花生ニメ有タチ見タルト森羅萬像ノ紅毛雜語ニ書テ  
置タカイカサマコレハイヤナ事ナム儲マタ大竺人  
ハ煩ヒツイテモ國ノ風テ七日カ聞トスフモノハ粒チ  
絶チイテ其丹ニナラレハヨシナホラヌトソコテ藥ヲ  
飲セルマタ死人ノ葬カタハ三ツノワケカアル第一チ  
火葬コレハ皇國ニモ持統天皇ノ御代ニ道昭トイフ僧

カ彼國ノ法ヲマ子テ仕始メタ事ヲ今モ爲ル通リヌ一  
ツハ水葬トイフテ流川へウツチヤル次ヲ野葬トイツ  
テ林へ棄テ獸ニ飼セテシマフテムマタキツク年カヨ  
ツテ煩ヒ舟連モ今度ハヨクナルマイト當人モ思ヒ人  
モ思フ様ニナルト親故ヤ知友ノヨリ集リ樂ヲ奏シ餓  
ヲノ其上テ舟へノセテ海川へ流シ出スト中流ニシ其  
人カミツカラ溺レ死ンテシマウテムカウスレハ天へ  
生スルト心得テイルトイフテムサアコレテ玄非法  
即ノ西域記ニ記シアル風俗ノアラマシテムタ、シ右  
申スヤウナ風俗トモハスへテ下國ノ風俗テ夫ハシカ

タハナイカ中ニケンカラヌ一ハ觀經伝フ佛經ニヨツ  
考ヘタル所ニ釋迦ノ時分迄ニ王ニ其父ヲ害スル  
モノ一萬八千人マタ子トメ父ヲ殺スモノ一萬人トモ  
シルシ有是ニヨツテ天竺ノ國カラチシルカヨイテム  
九カヤウ乱リカハシカルヘキワケハ何事モ始リカ大  
切ナモノテアルニ彼國二人ノ出來タル始カ亂リテ有  
ツタカカノ一テムソレハマツ彼國ノ人物ニ四ツノ差  
別カアル是チマツ心得ニヤナリマセンカ夫公チヤウ  
トコチラフ詞ニタトヘハ士農工商伝ヤウナワケテム  
マツ第一チ刹帝利トイフコレハ代々王トナルヘキ家

柄テ則戸氏七千餘國ノ國々ノ王トナツテイハテム  
二チ婆羅門トイフ是ハ翻訳ノイヘハ淨キ行伝コトテ  
則淨行トカク詞テ國柄相應ニ有リ來ツタ學問モシテ  
段々家ヲ傳ヘルモノテム第三チ毘舍伝フコレハ商人  
テム第四チ首陀伝是ハ農業ノ一チスル者テム云カ  
百姓テム刹帝利婆羅門毘舍首陀コレチ天竺ノ四姓ト  
イフマツ此ハツチヨク心得オルヘキ事テム  
傳ユノ刹帝利トイツテ王ト成ヘキ家柄ノ起ツタ所以  
ハ長阿含經ヒノ内ニ彼國ノ古傳カ委ク記シアリマス  
夫ニヨツテ其アラマシナイハ、世人初天地ノ成ヨフ、

トスルハ三大水瀰満タル所カ風カ吹テソレヲ結講ス  
サテ此世界カ出来ルト他生ト右ツテ人カ虫ノワクヤ  
ウニシタ、カ生ノ其砌ハ身ニ光カ有テ飛行自在テ男  
女ノ形モソナハラス、夕尊卑親疎ノ差別モナク又其  
食物ハ歡喜爲食トアリテウレシヒ悦ハシイト云事ヲ  
食メオツタトイフコトテム是カ變ナトシヤトカク  
佛經ニハコンナオカシヒ事カ有マスカトフノ歡ヒヲ  
食ツタモノカ彼穢トイフ獸カ夢ヲ食フト同シトテム  
諸カクノ如ク元一所ニウシヤト虫ノワクヤウニ衆  
共ニ生シタルモノ故衆生トイフトアリマス此カソモ

ソモ衆人ヲモロク衆生ト云フ佛語ノ出處テムサテ右  
ノ如ク此衆生凡カオマシマニモオカスニモ歡ヒヲタ  
ハオツタルニ自然ト地ヨリ密ノヤウナ物カ湧キ出テ  
是ヲ地味トイフソコテカノ衆生凡カ以手試掌トアル  
カラ気味ワルナカラニキヨイト指ヲツケテナメテ見  
タト見ヘマスカヤツテミルト味甘ク今マテ歎ヒテ  
食テイタトハキツイ相違ナ事トフモウマクテタマ  
ラン故コ、テカノ衆生凡カ元素蛆ノヤウニワキタル  
者凡故ウチノ様ニヨリタカリ類ツ、コンテナメルモ  
アリ手テシヤクナタルモアリ因有勝負便相是非ト

有カラ大キニ争ヒカ出来テイヤオレカ一口嘗ル中ニ  
オヌシハニシヤクリ嘗ヤツタナト、犬ノ群衆メイ  
處ヘ汁ノ餘リテモ捨タヤウニ嚼合ヒカトモ致シタ事  
ト見ヘルテムサテユ、ニ悲シキ事ハ右ノ物ヲシヤフ  
ツテコノカタ各々身ノ光リモナクナリ飛行自在モ止  
ミノノウヘ意地キタナク多クシヤフツタヤツ程顔  
塵悴タ伝フ事テム彼是スル中ニカノ穉ノヤウナ物カ  
皆ナ消テナクナツテシマツタ此ニ於テ皆憶惱吐哉ト  
アルカラ大キニカタ落シテ泣ワメイタ事ト見ヘルテ  
ムコレハ尤モナルコトテム此後ニマタ地皮トイフ

ノマタ地膚トイフモノモ生シソルヲモ右ノ如ク争ヒ  
テ取食タトイフイモアリマスカ其事ハマツチキテ其  
二種ノ物カマタ滅ツテシマウト後ニ自然ト粳米カ生  
シタ伝イテムソコテ衆生カ大キニ悦テ是ヲ食シタル  
所カコソ時始テ男女ノ形ヲナシテ陰莖陰門カ出来タ  
伝フイテムソコテ互相瞻視遂生慾想共在屏處為不淨  
行トアルカラ衆生各々互ニ前ヲ出シ見セモシ見モ致  
シフシキヤソコモトノ御マタクラヘアヤシキ一物カ  
突出致シテムトイハハコテラモ又サキノ股クラヲノ  
ソキシテシカ仰セラル、其許ノ股クラハハ前シキ一

ツノ洞カ出キテムイカニ拙者カコノ突出致シタル一  
物ヲソコノ股ナル洞穴ヘサシフサキ試ミタクコソ候  
ヘイカニモナト云テ在所爲不淨行トアル通り皆カ  
見ヘ又所へ行テカノ上總ノ方言ニイハルソ、コメ  
クシタコト、ミルテム此カ天竺ニ於テ男女交合ノ  
始メテムサテカヨウニ有ツ、其發生凡カ此藩佚ソコ  
トニノミ心ヲヨセテ夫婦トナリ其行ヒ、又時ニ人ニ見  
ラルマシキ爲ニトテ始テ屋舎ヲ立タトイフ事テム則  
本書ニ因此因縁世中立家トアルテム又ユレヨリ始テ  
懐胎シテ子ノ生レル事カハシマツタトイフテム扱

カノ自然ニ生シタル處ノ糞ニハ始ノホトハ朝ニ刈レ  
ハ暮ニ熟レ暮ニ刈レハ朝ニ熟スルト云ヤウニ有タル  
處カ中ニ火キニ恣ツラノヒツハツタル衆生カ有テ四  
五日程ノ糞ヲ一時ニ刈取タル所カトシト其木カ生ナ  
クナリテシマツタテムソコテトウモナランカラ各土  
地ヲ分ツテ疆ヲ立テ田ヲ作ルト云フカ始ツタテム處  
チ不屈ナ奴カ有テ己カ米ヲハ藏メテ他ノ田穀ヲ盜ミ  
ナトスルケレハ彼由ノワクヤウニモロ々一所ニ生シ  
タル衆生ノ一故ミナ同輩テ誰有テ是ヲ決斷スル者カ  
ナイカラ各評議シテ中ニ一人スクレテ形ノ大キク威

徳ノアル者カアツタル故夫ヲ主ニ請テ善ヲナス者ヲ  
以シ惡ヲナス者ヲ罰シサセタル處カ先ツコレテ乱リ  
カハシキ一モウスロイタトイフイテムコレヲ刹帝利  
トイフ刹帝利トイフハ民主トイフノ心ヲユレカ天竺  
ニ於テ酋長ノ始テ彼天竺四姓ノ第一タル刹帝利家ノ  
元祖テ是カラ段々ニ子孫カフヘテサテ天竺ノ國々ノ  
酋長共ハ皆此末シヤト云事テム釋迦法師モスナハ千  
此刹帝利ノ子孫テカヒラエ國ノ淨飯王トイフカ子テ  
ムサテ釋迦ノ姓ニ五ツノワケカアル一ツニハ瞿曇氏  
ト云ニツニハ甘蔑氏ト云ニツニハ日種氏ト云四ツニ

舎夷氏トイフ五ニハ釋迦氏トイフ悉クコレニハワケ  
カアルケルニ餘リクタマシイニヨツテ是ハオキマセ  
ウカ其中甘蔑氏トワケハカノ刹帝利ノ子孫カラスサ  
マシク年代ヲ累子イツチ後ノ王ヲ大茅草トイツタテ  
ム夫カ老衰ノ子モナカツタニハ國ノ事ヲハ大臣ト云  
ヘキ者ニ任セテ自剃髮ノ出家ヲナシタケレニ極老ク  
事故步行モナラヌソコテ弟子ノ輩カ時々出テハ乞食  
ヲノコレニクハシテオク其乞食ニ出ルルニ虎狼ノ事  
ヲ恐レテカノ王仙ヲハ艸籠ヘ入レテ樹ノ枝ヘヒツカ  
ケテハ出タト云事テム所ニカノ管ノ物オキテイル國

タカラ獵師カアリテ遠クカラ是ヲ見テ白鳥カイルト  
思ツテコレヲ射殺シタト事テムソコテ其血カ地ニ灌  
ツテソコカラ後ニ甘蕨カニ水生タ伝フテムソコテ  
其甘蕨カタンタトニ照サレテワレテ一本ノ中ヨリハ  
男ノ子カ生レ一水ヨリハ女ノ子ヲ生レタ伝フ事テム  
ソコテ彼國ニ居ル臣下凡ノ聞傳ヘテソノ男ト女ト子  
ヲ迎ヘ取リテユリヤ王ノ胤タトイツテ養育ノ成長ノ  
上テ遂ニ立テ王ニシタテムコレ故ニ甘蕨氏トモイフ  
トマタ親迦氏トイフワケハ此ノ甘蕨カラ生レタトイ  
フ王ニ五人ノ子カアリテ其母一人ハ水妻ノウンタ子

テコレハ不器量モノテ有ツタ残り四人ハ妾腹ノ子テ  
何レモ器量者ナル所カ水妻カソレテ嫉マシク思ツテ  
右妾腹ノ四人ヲ讒言ノ雪山伝フ山ノ邊ヘ擯出シタル  
所カ四人ノ子供ハ器量モツテアツタル故ニ遠クノ人  
マテ歸服ノ數年ノ間ニ家居ヲ立ツハケテ一ヶ國トナ  
シタテムソコテ父ノ王カ大キニ歎息ノワカ子凡ラハ  
釋迦シヤトイツタ事テム釋迦氏トイフハ是カ之ノ  
イテムサテ釋迦ト云天竺詞ヲ翻訳スレハ能仁伝フ言  
トナツテ能仁トイフハ仁ヲ能スルト書タル文字シヤ  
イハ、我子凡ラハ仁者シヤトイツタノテム儲コノ甘

蘇氏カ五人ノ子<sup>凡</sup>ノ第五人目ヲ尼拘羅<sup>凡</sup>フ尼拘羅カ  
子ヲ俱盧<sup>凡</sup>フ俱盧ノ子ヲ瞿俱盧<sup>凡</sup>瞿俱盧ノ子ヲ師子  
頰トイフ師子頰ニ子カ四人アリテ第一ノ子ヲ首圖駄  
耶トイフ是ヲ翻譯スレハ淨飯トイフ事ニナル淨飯ト  
ハ淨キ飯トイフ事テコウ名ヨツケタニモワケカアル  
ケレ<sup>凡</sup>コレハマスヨシマセウサテコノ淨飯カ善覺長  
者トイフ者ノ娘摩耶ト云フ夫人ヲ娶テ生ンタル子ヲ  
悉陀トイフ是カ彼ノ初テ佛道ト云フコト考ヘ出シテ  
世ニ弘メタ釋迦ト云フハコノ悉陀カコトテムサテマ  
タ釈迦ト云フハ本トウノ名テハ十イ元來ハ姓テ先ニ

モ申ス如ク龍仁トイフイテ龍仁<sup>凡</sup>ハ仁者ト云程ノ  
事テム夫ノミナラス悉多ハ衆生ノ爲シヤトカ云テ苦  
ンテ佛法ヲ弘メタニヨツテ其德ヲ賞ノ釋迦ト云タ<sup>凡</sup>  
イテム何<sup>凡</sup>五ニモ釋迦<sup>凡</sup>ハ實ノ名テハナク姓ナリアタ  
名ナリテム

叔コノ者生ル、時ニ母ノ右<sup>凡</sup>脇カラ生レ出ウマレル  
ト直ニミツカラ七足アルイテ右手ヲ舉ケ天ヲ指シ左  
手ヲ下ク地ヲサシ師子吼ヲナシタ<sup>凡</sup>云一テムコノ師子  
吼ト云ハ何ノイモナク産聲ノ事ト見ヘルテム然ルヲ  
マタ此師子吼ニ文句ヲツケテ我於一切天人之中最尊



最勝無量主死於今及矣此生利益一切天人ト吼タルアリ又一説ニハ天上天下唯我獨尊ト吼タトモアルテムコノ生ルト直ニアルイタリ手ヲ指シタリ何カノ吼タ事ハ何ノ經ニモイツテアルカ實ニコシナイノアツタカモシレマセンナセ伝ニ此取邪シマナル道ヲ始メ夫ヲカク世ニ説キ弘メタル程ノ變ナ奴故ソノ生レル時モコノ位ノ變ハアリソウナモノテム又具出ヲ見ルヤウニ脇カラ生レタト云フ事モ是ハ心狹キ儒者ナトハツケテモ正サヌツタニヤカマシク云テ疑マセウカ古學ノ廣ヒ心カラ見レハ是モ有マイイテモナヒカヤ

ツハリ偽テムナセカヤツニ偽ツタモノシヤトイフニ辯迦ホトノ佛カ凡人ト同レヤウニ陰門トイフ不淨ノ所カラ生レタト云ハハ尊ク思ハレヌカラ照顯カラ生レタト事ヲ神妙ニセンカ爲ニ偽ツタトテムステニ經文ニモ摩耶カ腹ニヤトラントスルマヘニ陰門ハ不淨ナ處シヤニヨツテ脇カラ生レヤウト觀メ託胎シタト云テアルテム右申ス通り變物ノ生レタルヲ故カヤウナ變ノアルマヒテモナケレト右ノワケモアリコノ外ニモ諸々ノ佛經ニ尻口ノ合又嘘ハカリツイテアルニヨツテ誠ノコトヲモ實トハ思ハレヌテム是ハチヤウト

テソ俗ヲモトカク何ニヨラス聞ニアイノ嘘チヨクヲ  
ヲモテアルク人カタマ々實ノ事ヲ云テモ又嘘カト思  
ハレテ信用ノナラヌヤウナモノテム是ニ舟テモ偽ハ  
イハヌ様ニ致シタイモノテム不斷嘘テツク人ト云フ  
セシハ何ヲ云テモ人ハ誠ニセス何カイ、出ストマタ  
鐵炮カ萬八カト云テ取上ヌカラ後々ハ自分カラノ嘘  
ツキノ心持ニナツテイルト見ヘテ何ソ一言イヒ出マ  
ニモ此ハツカリハ實ノコトシヤトマツ前口上チ云テ  
ムフヤウニナルモノテム又其ウフ聲ニ天上天下唯我  
獨尊トイツタノ或ハ我於一切天人之中最尊最勝云々

イツタナト伝フモ令ナ釋迦カ成道出山ノ道ヲ弘ムル  
片ニ妄言シタル説ノ尻ヲ結ハンカ爲ニ後ノ出家尼ノ  
偽リ云ツタ事テム是ハ道々開ル、ウチニ其化ノ皮ノ  
アラハレテワカルイテム儲此生レタル日ハ因果經ニ  
ハ四月八日シヤトアリマスカ佛所行讚經トイフニハ  
三月八日伝フイテム時ニ白淨王及諸親友未識三寶卽  
將太子在詣天寺トアルハ則梵天ノ詞ニ參詣レタル事  
テ所謂官參リト見ユルテムコレハ釋迦カ云出サヌマ  
ヘハ佛トイフモノハナキモノ故誰モ知タル者ナクソ  
ノ第一ト祭ル處ハ古傳ノマ、ニ梵天ヲ大功ニシタル

○此定英語  
三十三

カ故テム

コノ續ノ文ニ此時ソノ梵大ノ像カ座ヨリ立テ釋迦  
小僧ノ足ヲ禮メ淨飯王ニ云フニハコノ太子ハ天人  
中ノ尊テ虚空大神モ皆悉ク敬禮ス如何ソ今コノ二  
來テ我ヲ拜サスルソトイツタトアルカ例ノ偽テム  
叔ソノ呼名ヲハ諸ノ婆羅門凡ニ相談シ薩婆悉達ト名  
ツケタテム

コレハ漢語ニ譯メ吉祥王ノ事ニナルテム

サテ此悉達カ人相ヲ阿私陀仙人トイフカ見テ此子乞  
食ノ相アリ出家シテ大名ヲ發スヘシトイツ多トイフ

事テムソコテ淨飯カ大キニ愁テ出家サセマレキ爲ニ  
クサ々其用意ヲメ中ニモ多ノ妓女ノ形容端正不肥不  
瘦不長不短不暗不黑戈能巧妙各々藝技ヲ兼タルヲ撰  
テ身ニハ名寶ノヨウラクチカサリ替ル々ニモリメサ  
セ悉達カ心日ヲ悦ハセントハカツタト云事テム叔彼  
摩耶ハ悉多ヲ生テ七日目ニ死タテム脇カラ生レタト  
云ハ偽リナレモイツレニモ以ノ外ノ難産テ有タル故  
成タノテムコルチ又大善權經ナト云モノニハ生後七  
日其母便覺福應鼻天非菩薩咎前處都卒觀摩耶大命將  
終有十月七日之期故神喪來下是菩薩權方便ナトイツ

テアルカスヘテ釈迦カ妄言ノ尻ヲ結ハウトテ作ツタ  
説テムスヘテコノ大乗權經トイフモノハカヨフノ尻  
ヲムスフ事ハカリヲ多クイツタモノテムカクテ淨飯  
王カ後妻ヲハレテコレカ名ヲ摩訶波闍婆提トイフ是  
ニモ子カ出来テ難陀ト云テム  
サテ悉多カ七歳ノ時婆羅門ヲ師トシテ手ヲ習ハス時  
其師カ梵字四十九字ノ手本ヲ書キ其首ヲ教タル處カ  
悉多カ問ニハ此国土ノ中ニ書カ幾種アルソマタコノ  
同字ニ何等ノ義カアルソト問フソコテ其師モ答カ出  
來ヌトニ悉多カイフニハスヘテ此国土ノ中ニ梵書ア

リマ々佉樓書トイフカアリ蓮華書伝カアリスヘテ六  
十四種アリマタ阿字ハコレ梵音芭ニメ字義ニ無上正  
道ノ義カアルト云テコマカニ其事ヲ論シ聞シタテ  
師匠ノ婆羅門モヘコミ果タトアル又諸ノ藝典籍議論  
天文地理筭數跡御悉ク自然ニ知テイタトアルカ異モ  
偽テコノシリツホカ今ニハケルソレハ此ツ、キノ事  
實ヲ見ルト悉多カツキ從フ者モト國界へ出テ閻浮樹  
トイフ木ノ下ニ立テ耕人ヲ看居タル時ニ蟲カ一ツ死  
イテソレヲ鳥ノ啄キイル處ヲ見テ悉多カ慈悲ノ心ヲ  
起シ衆生可憐互相吞食スル事ヲト思惟シ是コノ欲界

コ、テ菩提心ヲキサシカケタトアル此後マタ野外へ  
出タル所ニ一人ノ老人カ頭白ク背偃リヤセサラホツ  
テ杖ニスカリ歩ミ行キ見テ側ノ者ニアレハ何シヤト  
問フカラ從者カアレハ老人トイフモノテムト答ヘタ  
所カ老伝フハトウシタワケシヤトイフ從者カ云フニ  
老トイフ八年ツモリテ色衰ヘ飯食モ減シ氣カモ薄ク  
ナリ餘命イクハクモナキモノチ老人トイヒマスルト  
云フタレハ夫レハカレ一人ノミサウカマタ一切ノ人  
皆サウカト問フ一切ノ人ミナ悉クアノヤウニナリマ  
スルトイフト悉多カ大キニナケキテコ、ニマタ々思

フニ八年移リ老ノ至ルノ電ノ如ク吾前富貴豈獨免耶  
イカニソ世ノ人カ是ヲ怖レヌ事テアラフト云テマス  
マス世ヲ厭フ志カ起テ愁ヒツハ歸ツタトイフ事テム  
コレカ十七歳ノ時テム此後マタ途ニ於テ甚々弱リハ  
テ夕病人ヲ見テ此時モカレハ何ソト從者ニ問フタ所  
カアレハ病人テ云サルト云其病トイフハトウシタト  
シヤト問ヘハ病伝モフハカヤウ々ノワケテ起ルト云  
事ヲ云聞シタ所カソレハアノ者ハカリカマタハ人皆  
サウカトイフ一切ノ人誰トテモコレハ適レカタイ事  
テムト答ヘタレハ悉多カ又フサキ出シカハル怖ロシ

キコソアルニナセ世人ハコレヲ恐レヌコテアラフト  
怖ロシク思ツテ身心戰動如月影現波浪水トアルカラ  
地震ノ子カ莖弱ノ幽靈トヤライフ如クフルヤフルイ  
出シタト見ヘル事テムコレヲノ説トモハ釋迦ノ菩提  
心ヲ發シタル所以テ有ノマクニ記シタルテユレハ實  
ニカヨフノ事トモカラ世ヲ捨ル志カ超リタテアロウ  
テム是ニツケテ念ハハ右申シタル七歳ノ昔書ヲ學ン  
テ色ヤトコマシヤクレタ事チイツタリマタ諸ノ藝典  
籍天文地理算數射御ヲ始メ何ニヨラス自然ニ知テイ  
ルト有ルノハミナ跡カライツタウソナルノハケノ

皮カ知レルテムナセト云フニ六ツ七ツテソレホトノ  
一ヲ精密ニ辨ヘ知テイタホトノ者カ十六七歳ニナツ  
テ人ニハ病伝事カアリマタ老ル伝事モアルワケヲ知  
ラヌ伝フ事カトフニ有マセウソ能ク考ヘテ見ルカヨ  
イテムマタ右等ノ虫ヤ老人マタ病人ナトハ悉多カ野  
外ニ出タル時ユクリナク見テ右ノ如ク無常ヲ觀シタ  
コトト見ユルソレヲ又ツクリ言テ其虫モ老人モ病  
人モ悉多ニ菩提心モ發サセンカ爲ニ淨居天トイフ天  
神カソシナ者ニ化テ見セタノシヤト有マスカユレハ  
殊ニ尻ノ結ハラヌウソテムナセ伝フニ釋迦ハ元都率

天ニ居テ成佛ノイタ所ヲ此天千クヘ生レテ來タノハ  
假ニ摩耶夫人カ腹ヲカリテ生レタト云フテハナイカ  
ンシナラ出家スルコトハ兼テ覺悟ノ一ル故淨居天カ色  
々工夫ヲツケテ菩提心ヲ勸メス所ヨイテム殊ニハ  
大カラ下リ摩耶ノ胎ニ宿ル時諸ノ天神ニカ子テソム  
コトヲイツテ聞シアルト云シヤナイカ是ラハ何ノ一モ  
ヲク釋迦カ元來凡人テアル所ヲコシナ専カラ思ヒツ  
ヒテ出家シタト有ノマ、ニ傳ヘテハ面白ミカナク尊  
トクモナイヤウシヤニヨツテケ様ニシリロノアハヌ  
嘘チイツタモノテムスヘテ經文トモハ此次ノ會ニ奉

クイヒマセウカ盡ク釋迦カ死テハルカ後ノ世ニウソ  
ハツキ次第ト記シタルモノ故實ノ事ハナイカ其中ニ  
實ニ有タル一實カヌヘ交リアルソレハヨク前後ノ考  
ヘワタシテ味ハヘルト動カヌモノテム其動カヌ實事  
ヲ撰ヒ取テソレヲ規矩トメヨクサクリ考ヘルト彼偽  
ルカヨクシレルテムスヘテ佛經ヲ讀ム法ハ一ツニツ  
ソノ實事ヲ以テ偽說ヲ考ヘレリマタ其偽說ヲ以テ實  
事ヲ知ルトイフ法ヲ心ニ立テヨムツ宜シヒテムサウ  
ナイト惑ハサル、一テム  
扱悉多ハ日カ居所ニ歸ツテモ右ラノ一ノミカ心ニ懸

リホフヘトノ愁悶ヘテイタル所ニ父ノ淨飯カ其從者  
凡ニ上件ノ事凡チ尋聞テ悉多ノ遺世心ノ崩有事ヲ察  
シ彼阿私陀仙人ノ前ニ相チ見イツタル言モアリ方  
々ソノ出家セン事ヲ恐レテ悉多ハ此レモハヤ十七歳  
ニモ成ツタルコト故妻ヲ持タシソノ心ヲ止サセント樓  
ヘ都合二人ヲ呼ヒサツケマ夕選諸妓女聰明智慧顔容  
端正善於歌舞能惑人者種々莊飾光麗悅目トモアルテ  
ムサテ悉多カ妻三人ノウチ第一ヲ瞿夷ト云テ水光長  
者ト云者ノ女第二ニハ耶輸ト申シ移施長者ト云フ者  
ノ女テム第三ニハ鹿野ト申釋長者トイフ者ノ女テム

マタ子モ三人アツタテム第一ヲ善星トイフ是ハ鹿野  
トイフ女ノ生ンタ子テム第二ヲ優婆摩耶トイフ瞿夷  
伝フカ生ンタ子テム第三ヲ羅睺羅ト云コレハ耶輸ト  
ムフカ生ンタ子テムカノ五百羅漢ノソノ一人テムナ  
レト妻チ三人持チ子モ三人生セリヤ隨分澤山ナ事テ  
子福者伝テモヨキ程ノ事テム但シ是ハ佛本行經五夢  
經十二遊經ナト云類ヒノタシカナル佛經ニ記シ有テ  
爭レヌ事テム抑釈迦ニ妻子ノアル所以ハ右云ス通り  
天竺ノ四姓ノ中ニ第一タル刹帝利ハ王親伝テ國ヲ守  
リ民ヲ治ムル者其次ニタツ婆羅門ハ法種トイツテ民

凡ノ事ハ皆

凡ノ事ハ皆



ヲ導キ教フル者テ漢土ノ國チイハフナラハ儒者ノヤ  
ウ十者テム夫故コノ婆羅門伝フ者ハ妻子ノアルモノ  
テム釋迦ハ刹帝利ノ家ニ生レハ致シタナレモ自分ノ  
物スキテ王トハナラス廿五ノ時家チ出テ婆羅門ト同  
シヤウ二人ヲ導キ歐ハ釈迦以前ニハトントナカツタ  
新趣向ヲ立テ妻ヲ持ヌトイフ事ヲ始メタモノテム  
カヤウノ法ヲ立タニモワケカアルカソレハオシ舟  
云STEM

此ワケ故ニソノ出家セヌ前ハ妻ヲモチ妻ヲ持タニ依  
テマクハイチ致シマクハヒチ致タニヨツテ田七生セ

タトイフモノテム夫チ後世ノ佛者凡カワルヒイキ  
致スヒカミ心ニ釋迦ニ妻子カモカヤウニ澤山有  
タトイフチカイヤテナラヌカラ後々偽リ作タ佛經ニ  
イカフ負情ミ十事ヲ云タモノテム

一体諸ノ佛經チミ士釋迦ノ説ノ事ヲ記シタモノシ  
ヤト思ツテ世人ハオルケレモ盡ク後ノ出家者ノ釋  
迦ニ託シテ偽リ作ツタモノニチカヒナク其ワケハ  
具ニコノ次ノ處ニ申ツモリテム

サテ其後世ニイツハリ作タ佛經ノ負情ミト云ハ譬ハ  
瞿夷ト云女ノトヨ耶輸カ別名シヤトイツタリ是ハ二

ハテモ妻子少クシヨウト思ツテ有オシニ又ハ善星  
ト云子ヲハ紙迦ノ子テハナイ堂第ノ難陀カ子シヤナ  
ト云テ有ケレト皆セツナク作タ説トテ真ノ事テハ  
有ヤ致サソ殊ニ善星ナトイフ子ハ涅槃經ノ文ニヨッ  
ラ考ヘタ所カ釋迦ノ菩薩ノ所ノ子シヤト有カラサス  
レハ北五テ出家又山ニ入リ三トノトキ日ニ佛ニ成タ  
ト云テ山ヲ出テカラ後ニ鹿野ト云女ヲ犯シ生セタ子  
ニ子カイナイテムサスレハ菩薩モ油斷ハナラヌ所カ  
是ヲ信、クロメヨウトテマツ大善權經トイフニイツ  
テ在ニハ何故菩薩而有室娶菩薩無欲所以示現妻息防

人懷疑菩薩非男斯黃門耳故納瞿夷親氏之女生羅雲云  
於天變没化生不由父母命會而育在ト有マスカ此經又  
ノ意ハマツカリニ何カ故ソ菩薩ニノ妻ヲ娶タモノシ  
ヤト云フ間ヒノ辭ヲ設テサテ夫ニ答ヘテ菩薩ハ無欲  
トイツテ房事ノ念ナトハナケレト其妻子ヲ持テ示現  
セタル所以ハモシヤ人カ菩薩ハアリヤ男テハ有マイ  
ナト、イヒ又ハ黃門ト云テ陰莖ナシノコトシヤトオ  
モハルウカト其ウタカイヲサケヨフカ爲ニ瞿夷ト云  
女又親氏ノ女ナトヲ納レテトナシ羅雲ヲ生シタモ  
ノシヤカ夫モ天ヨリ變没トイツテ胎ヲ投シサセ産シ

○出定笑語

タモノテ父母ノ交會ニヨリテ出來タモノテハナイト  
イフノ意テム然レモ交會ノ出キタテナケリヤ釋迦ハ  
黃門ト云テ陰莖ナシテハナカツタトイフノ證據ニハ  
成ヌ事シヤカコリヤケシカラシ尻口ノ合ヌ負オシ  
テム又或ハ耶輸カ腹ヲチヨイト指サシタレハ妊シテ  
六年カ間生スニイテ釋迦ノ成道出山ノ後ニ羅睺羅カ  
生タナトハイフ事モ有ケレモ然ハ羅睺羅一人ハ夫ニ  
モシテヤラフケレモ外ニマタ優婆摩耶トイフ子ト善  
星トイフ子ト二人アルカコノ二人ノ子トモチハ何ト  
モイハクロメヨウカナイテムコリヤミナ俗ニイフ頃

隠シテ尻カクサストカ云類ヒノウソテトシト釋迦ノ  
知又其テハ有ケレモ余リトイヘハ智慧ノナイ嘘ノツ  
キヤウテムナセ又ケ様ニセツナイ嘘ヲツクトイフニ  
一タイ釈迦ハ人ヲ導クノ方便ニ我ハ久劫トイフテ幾  
百萬歳ト云限モナク久シキ前カラ成佛ノ都率夫トイ  
フ天上ニ居タルカ世ニ出テ佛法ヲ弘テモヨキ時節シ  
ヤト見極メテ淨飯王カ妻摩耶夫人ノ腹ニ宿ツテ世ニ  
出タモノシヤトイツテ入ヲオトシテイタ所カ其後其  
流レチクム佛者凡ノ心ニモシ人ニ釈迦ハサホトニ久  
シイ先カラ成佛ノイタトイフナラハ妻子ハスリソム

○出定笑語

ナイモシヤ佛ニ妻子カ有テハヌマヌト難クシタ  
由ニコマルワケ故釋迦ノ方便ニイツタノ其屍ヲ結  
ハウトテカ、ル類トノセツキイツソチツイタモテ  
ム實ニコ、ハ出シテ申ニモ申サレヌチカシヒ事ハカ  
ツ有マヌカ其ウチ一ツチイハウナラハ觀佛三昧經ト  
イフ經文ニ有越ハ釋迦ハ妻ヲ娶ツタナレトモ交會ヲ  
セカレタ處カ耶輪陀羅ヲ始メモロクソ侍女トモカイ  
カフアヤシンテ居タル時ニ其待ヒ女ノ中ニ一人カイ  
フニハ奉事ノ歷年不見其狀況有世事トイフ  
タハシコ、ニ根トイツタレハ則陰莖ノ事トイ

フハヤガテ交合ノコトデム。何ノコトモナク親迦ニツ  
カヘテ年ヲヘタケレドモ其陰莖ヲ見タコトガナイカ  
ラマシテ交合ハセヌハツジヤトイツタノデム。

時ニマタ一人ノ女ガイフニハ。我事太子經十八年未見太  
子有<sup>レ</sup>便利患<sup>レ</sup>况<sup>レ</sup>復<sup>レ</sup>諸<sup>レ</sup>餘<sup>レ</sup>トイノ此意ハ我ハ太子ニツカヘテ  
十八年ヲヘタケレドモ是ニテ太子ノ大小便ヲシタ所ヲ  
見タコトガナイカラ。サスレバ陰莖モナイト見ユルコト  
シテ交合ガナラフゾトイフソノ時モロクノ女ドモガニ  
ナクシカラバ太子ハ男デハアルマイト思フタトソコテ  
親迦ハコレヲ察シテ昼寢ヲシテカノ一物ヲ出シテミセ

夕デム。其見セタル趣ヲハ經文ノマ、ニヨミマスカラ。ト  
フクリト御キ、カヨコシデム。爾時太子於其根處出ス白蓮  
花、其色紅白上下二三華相連諸女見已復相謂言如此神人  
有蓮花相此人云何心有深著作此語已噎不能言是時蓮中  
忽有身根如童子形諸女見已更相謂言太子今者現奇特事  
忽有身根如丈夫形諸女見已更不勝喜悅現此相時羅睺羅  
母見彼身根華々相次如天却見一一荅上乃有無數大身菩  
薩手執白花圍繞身根現已還沒爾時復有諸婦女等皆言瞿  
曇是無根人佛聞此語如馬王相漸々出現初出之時猶如八  
歲童子身根漸々長大如少年形諸女見已皆悉歡喜時漸長

大如蓮花幢一一層間有百億蓮花一一蓮華有百億室色一  
一色中有百億化佛一一化佛有百億菩薩無量大眾以爲侍  
者時諸化佛異口同音毀諸女人惡欲而說偈言

若有諸男子 年皆十五六 盛壯多力勢

數滿恒河沙 持以供給女 不滿須臾意

時諸女人聞此語已心懷慚愧懊惱躡地拳手拍頭而嗚呼惡  
慾各厭女身皆發菩提心トアリマスガナントコレハ大變  
ナコトデハアリマセンカ。コリヤミナ右申ス通りノチノ  
法師ドモガマ々オシミテツクツタル馬鹿説デム。カヤウ  
ノ馬鹿説ヲツクツテ。釈迦ヲカバフツモリデハアラフケ

レドモコレコソマコトニ具負ノヒキダフシトイフモノ  
デム。ナゼトイフニソウソウ世ノ人ジヤトイツテ文盲ナ  
モノハカリアルモノデモナイカフ坊主ノヤウニダダ  
ダダダダトバカリハ読テオラズタマサカニハイマ篤  
胤ガヨンダヤウニシヤントヨム人モアルカラサウヨマ  
レテハタマラス右申ス通りモロノ仙經コトゴトク衆  
迦ニ託シテノチノ佛者ノイツハリ作ツタモノデハアル  
ケレドモ世ノ儒者ナンド大カタノヒトハミナ実ニ釈迦  
ノクチカラ出テ阿難カ書テオイタモノジヤトカタク覺  
ヘテオルニヨツテ目<sup>ノサシ</sup>指テハ釈迦ヲ謗ル世ニ佛道ヲソシ

ル者カ皆サウテム此方ノヤウニ佛經カミナ後ノ佛者  
ノ偽リ説テ釋迦ノ言又説ルカ十二シテ九分ホトシヤ  
ト云説チ心得テ其論辨セ子ハナラヌトカ有テ論辨ス  
ル世カヨフニワケチ立テ云人ハ佛法ヲソシル人カタ  
トヘハ百人有マセウカ其中ニヨクコ、ラノワケヲ知  
テイフ人ハヤウ々一次有カチシテ外ノ九十九人ハミ  
ナ釋迦ヲメサシテ謗ルカラナント後世ノ佛者世ノ  
ハサハ釈迦ヲヒイキノヒキ倒シテハアルマイカ釈迦  
ノ妻ヨ三人子ヨ三人持レタ事ハトウイ、クロメタレ  
ハトテ活タ眼テ書テヨム人ニハ是非其尻ツホチ見出

サレル其シリツホト云ハ五夢經十二遊經佛本行經ナ  
トニタシカナト又其餘ニモ維摩經ノ註ニ鳩摩羅什ナ  
ントイフシカモ是ハモト天竺ノ僧シヤカ其言ツタ  
ニ淨飯王カ釈迦ニ出家ヲサセマイトテ更ニ伎樂ヲ増  
シテヨロコハシタ所カ其時菩薩欲心ヲ二發シ羅睺維  
胎ニ所シ耶輸其夜ニ身メリトイフ一モアルカラサス  
ルハ釈迦ハ其ツタマイ酒ノ遊ヒニ心ウカレテ淫欲ノ  
コノロカオコリソコテ耶輸オヲシユカシテバラマシ  
タニハソフイナヒ一テム  
借悉多ハ父ノ淨飯カハカライテ妻ヲムカヘ子サヘニ

ウミモ致シタナレト此後又ノ野邊ニ出タル所カ死人  
ヲコシニノセテ香花ヲソサヘ其眷屬ノ者ト見ヘテ突  
ツ、是ヲ送ツテ行ク是ヲミテ從者優陀夷ト云モノニ  
アレハ何シヤト問フソコテ死人シヤト答ヘタル處カ  
シヌトイフハトウシタ事シヤトイフカラ優陀夷カ  
云ニハ死ト云ハ魂シヒ去リ身動カス寒熱ヲモ知ル事  
ナクナル事シヤト答ヘタテム悉多カコレヲキイテ  
大ニ恐レテソレハ彼死人ハカリシヌ事カ又外ノ人モ  
サウカト云カラ優陀夷カ一切ノ人ミナカクノ如ク貴  
賤トニ免ルノコトアタハズト云フト悉多カカ、ル苦シ

キ一ノ有二世ノ人ソレヲ恐ル、心ノナイトイウハ本  
石ニ等シキ一シヤト云テ早々ニ歸ツタト云事テム但  
シ前後ノ事實ヲ考ヘワタスニ此時ハ悉多カ二十三  
歳ノ時ト見ヘマスカ夫マテ死トイフ事ヲシランテア  
ルトイフハ餘リトイハ愚事テムスヘテ右等ノ一  
世ハ悉多カ出家シタル先ノ因ヲイヒ傳ヘタリ故只大  
ラカニ出ノ死タノヤ老人病人歿又等ヲ見テ菩提心ヲ  
發シタトイフ、ニサツト見テチクカヨイテム又悉多  
ハ王ノ太子ト有ナカラ此出タル度、ニカ、ル不淨ノ  
者ナトヲミル處ヲ以テモ漢土ノ王ナトノ如ク立派ナ

事テナク今御國テ云ハウナラハ村々ノ大庄屋ヲ見タ  
様ナモノナルコトヲシルカヨイテムサヤウナ趣ニ相違  
ナキ故佛經ヲミルニ同輩ニ見ヘル王ノイクラトナク  
アツテ既ニ五百ノ王カ一度ニ攻來ツタナトヤウノ事  
サヘアルテムカウノ如クナル所ヲ佛經ヲ漢土テ翻譯  
スル徒カツノシトケナキトモカイヤサニ文ヲ飾リ譯  
シ盡ク漢土サマニ書取テ在屋殿ヲハ王トカキノカ  
ハアトフヲハ后ト書キ又其子ヲハ太子トカキ其云々  
言モ吾トイフヲハ朕ト云様ニ何モカモ漢風ニ國カラ  
住居ノ様子マテチモモロユシフリニ仰山ヲシク書テ



人ニ信ヲ起サセントシタモノテム佛書ヨ見ルニコノ  
事ヲモヨク心得テヨマヌト其文章ニ識ラレテ支那十二  
トノ様ニ大ソウラシイ事カト思フテム中々アシナニ  
結講ナコテハカイ近ク云ヘハ蝦夷ニモ村々カレタハ  
カアリテ其村々ノ酋長ヲオトナ伝ユレハ何百人伝フ  
程多クアルコレト同シサマテム蝦夷ノ事ヲカクニモ  
オトナカコヨハ玉トカキメノコカ事ヲ后トカキ其子  
ヲ太子トナシ書クト殊ノ外ニ仰山ニ見ヘルテム漢土  
ハ實ニ仰山ニ立派ナテム是ニワケカアルソレハ漢  
學者ノ世申STEM

斯テ悉多ハイヨ々出家遁世スヘキ心ニ決定ノ父洋飯  
エカ前ニ出テ云ニハ恩愛集會必有別離唯願聽我出家  
守道不留難トイツタル所カ淨飯王犬ニ驚キ泣テ物モ  
侍云ス良久レテ云ニハ汝ヨロシク其意ヲ息メヨイカ  
ニソナレハ年モナホ若ク國ニハ未タ世嗣モナシ然ル  
ニ我ヲステ、出家シヨフト云ハ宜カラヌ事シヤト淚  
ナカラニ謙ル時ニ悉多カイフニハ然ラハ我ニ四願カ  
アル一ツニハ不老ニツニハ無病三ツニハ不死四ツニ  
ハ不別父モシ此四願ヲアタヘ給ハ、出家ハ致スママヒ  
ト云是カ實ニイハユル難題テコレテ父ヲヤリコメタ

モノテム淨飯モコレヲキ、ナホ悲ニ彼是ト諫ル所カ  
トント聞入レス悉多ハマツ吾イル所へ引返リハシタ  
ナレ厄出家セントノ心ハ決定夕或夜人ノ寢ンツマル  
テ伺ヒ車匿ト云者一人ヲツレ捷歩ト云馬ニ乘リ恐ヒ  
出タテム其出ルルニ我若不斷生老病死憂悲苦惱終不  
還宮不盡恩愛之情終不還見耶輸陀羅ト云テ出タトイ  
フテ人カクテ跋伽仙人トイフ婆羅門ノ修行シテ居  
ル山へ行テ馬ヨリ下リ身ニ着タル衣服カサリノ品々  
ヲ脱テ彼車匿ニ渡シ夫マテ送タル事ヲ賞ノ歸サント  
致ス處カコノ者イフニハ君ヲユ、ニオヒテ我ノ歸

リタナラハ定テ父王ノ登ニ逢ヒ候ハシ程ニコ、ニ羅  
給ヘトイフ竹カ悉多カ云ニハ汝還テ父ノ王ニ白スヘ  
キハ吾今不爲生天樂故復非不孝順父母祖以畏彼生者  
病歿爲除斷故來至此耳トイヘ又父王ツカ出家シタル  
事ヲ早イトイハレタナラハ生老病死至ルル豈定有時  
人雖少壯焉得免此トワカイツタトイヘ上遂ニ其答  
ノシヤウマテ教ヘテ歸サントスル所カ車匿ハナホ戀  
々ト、還リカ子テ居ルルニ悉多ハ聲ヲハケマシテ會  
者常離ノ理テ有故ニ我レ生ルテ七日ニシテ母ノ命終  
タルヲミヨ母子スラ尚死生ノ別カアル況餘人ヲヤ汝

速ニ馬ト共ニ歸ルヘシト最クイツテ自ラ鬚髮ヲソコ  
折節ソコヘ來ル獵師ノキテオツタル袈裟ヲソカ今マ  
テキテオツタル服トキカヘテ車匿カ泣タラシテ居テ  
モカマハス袖ヲハラツテ山奥ヘ入ツタテム此時ハ二  
十五歳ノキユハ是ヲ二十五出家ト申テム此出家ノ年  
モ諸ノ經ニ千カヒカ有テ或ハ十九出家モアリ又ハ七  
歳出家トモ有マスカ是ハミナ釈迦ノ妄説ノ尻ヲ結ハ  
ントスル種ニセントテ後世ノ法師凡ノ奸曲ニイヒ出  
シタ事ヲ實ハ二十五歳カ出家ノ年ニテカイナヒテム  
ソコテ車匿モ詮方ナク涙ナカラニ馬ヲ牽テ還タテム

儲悉多ハ山奥ニ入テ彼跋伽仙人カ修行ノ居ル所ヘ行  
テ見ルト諸ノ鳥獸カ佐馴テ飛ヒ走ラス儲彼仙人共ノ  
修行ヲ察ル處カ或有以草爲衣者或以樹皮木葉而爲服  
者或有唯食艸木花果者或一日ニ一食或二日ニ一食或  
三日ニ一食カクノ如ク自餓ノ法ヲ行フ者アリ又或水  
火ヲ事ヒ或日月ニ奉ヘ或翹一脚或臥塵土或有臥荊之  
上者或有臥水火之側者コ、ニ悉多カソノ跋伽仙人ニ  
ソコラハ今カクノコトキ苦行ヲスルカコレハ何等ノ  
果報ヲ求メントスルノシヤト問フタ處カ仙人答テ此  
苦行ヲ修スルハ天ニ生セン事ヲ欲スルノシヤトイフ

ソコテ悉多カマタイフニハ天ハ樂シイケレトモ福盡  
ルトキ竊テ六道ニ輪廻シテ終ニ苦聚トナルイカニソ  
諸ノ苦因ヲ修シテ求苦報ソト難シテカヨウニ議論シ  
ツ、日暮ニモ及ヒ其夜ハ一宿シテ明且マテ思惟シ夕  
ル處カ此人仙人トモ苦行ヲ修ストイヘトモミナ解脱  
眞生ノ道ニアラスコハニ留ルヘキトテナイト其所ヲ  
去コノ山ノ北ノ奥ニ阿羅邏賣陀羅仙人トイフ大仙  
ノ修行シテイル事ヲ聞テソレヘトテ立ちコヘタテム  
サテ又悉多カ家ニノコツテオツタル耶輸陀羅オヨヒ  
モロクノ女尸カ眠ヲサマシテ見ルト悉多カオラヌ

ラマツトリアヘス泣出シテ淨飯王ト繼母ノ摩訶婆闍  
波提ニ是ヲ告タル所カ二人トモ大キニタマクテ地ニ  
倒レナキ淨飯ハ夫レカ爲ニ精魂ヲ失ヒイハユル氣絶  
イタシタテム所ヘ彼車匿カ馬ヲヒキ哭ナカラ一歸リ  
キテ具ニ右ノ始末ヲ語ル代ニ摩訶婆闍波提ハ悉多我  
カ養育ニヨツテヒトハ成ナカラソコハ思ハス我ヲス  
テ跡ヲカクシ去レリト云テナク耶輸陀羅ハ我ハ年久  
ク親ニ行住座卧相離ス然ニ今吾ヲ捨タリ古昔諸王  
人山學道皆將妻子不暫相棄世間之人一遇相識別不相  
忘夫妻之情思愛之深而反更是如之薄ヨト云テナク其

中ニ淨飯王モ氣カ舟テ果ソ車匿ヲ叱ルソコテ悉多カ  
申付タル如ク理屈チイッタル處カ淨飯モヘニコミソコ  
テ車匿ヲ咎ルイチ止メタカトカク親子ノ情愛止カタ  
イカライテヤ悉多カ在處ヲ尋子ントマテ致シタカ人  
モ諫ルユヘ王師ト云テ淨飯王カ師ト頼ム者ニ心服ノ  
者ヲ多ク添テ遣ノマツ彼跋伽仙カ許ヘ尋サシタル處  
ニカノ仙人ノ云ニハ淨飯王ノ太子カ何カ知ス近頃一  
人ノ少沙彌キテ一夜我ト議論チシタカ北方阿羅邏仙  
人ノ許ヘ行タト云カラ王師カ又夫ヘユク處道ニテ  
尤山中ニ悉多カ樹下ニ座禪チシテ居ルカラ王師ソ

ノ前ニ進テ父王ノ歎キヲ云テ歸ル様ニイフ時ニ悉多  
カイフニハ我豈不知父王於我恩情深也但畏生老病死  
之苦故來此爲斷除ナリ父王モシ此苦ヲ除キテ賜ラハ  
歸ルヘシサウナケリヤ中々還ラヌト理ツメチイフ處  
ヲモ師モサルモノテ色々理害ヲトシ處カトイヘハカ  
クイヘツ、口カシコクワレハ是ヨリ阿羅邏仙人ヲ道  
師トメ生死解脫ノ道ヲ求ルト云テ袖ヲハラツテ一ハ  
ヤク山奥ヘカケ入タテムソコテ王師ハ空ク還ラレモ  
セヌカラ思ヒツイテ其連タル人氏ノ中ニ憍陳如ト云  
者始メ五入ヲ出ニニコシテ悉多カ修行ノヤウスヲ窺

ハセテ王師ハ還ツタテム  
サテ悉多ハカノ阿羅、仙人カ居ル山ハ是ヨリハマタ  
遙ニ國ノ山川ヲ隔テ遠キ處ナルヲ厭ハス其途ニ國々  
ノ王比王舍城ノ頻婆沙羅王又摩竭國ノ缺沙玉此ヲモ  
皆元ハ彼刹帝利ヨリ出テ同姓ノ事故達テ諫ル處カ夫  
モ右ノ如クキ、入ス遂ニカノ阿羅、仙人ノ住スル處  
テニタツ子入對面ヲ道ヲキ、カケタテムソモ々天  
竺ニ於婆羅門トモノ學問トイフモノハ前ニモ申スコ  
トク婆羅門家ノ者トモカ代々ウケツイテ致スコトテ其  
學ヒカタハ七歳以上ハ自分ノ家テ學問シ十五以上ニ

ナルト出家ヲシ諸々方々ヲアルイテ學ヒ年四十二ナ  
ルト子孫ノ斷絶センコトヲ恐レテ家へ還リコトテ始テ  
妻ヲ持チサテ子ヲ生ムト其中二年ノ五十二モナルト  
又々山ニ入テ道ヲ修行スルテムサテ其道ト云テ修シ  
教フル趣ハトウシヤト云ニ治心ト云テ心ヲチヤント  
治ムルノ修行ヲノイッモ申通り彼國ニモ天津神ノ天  
地ヲ始メ世ニ有トアル事比ハソノ御靈ニ依テ出來ル  
物シヤトイフヲ傳ヘカ有テユレヲ彼國テハ梵天王ト  
イハ傳ヘテアルテム夫ハ諸ノ佛經ニ梵王ハ是沙婆ノ  
主トイヒ又ハ梵王居大千之中以統御爲上トイヒ又ハ

大梵王言我生世間トイヒ又梵天王名一切衆生祖父作  
一切有命無命物ナトヤウニイヘル言正カシク、カア  
ル此古傳説カ有ニヨツテ是ナ水ト以道ヲ説タモノテ  
ム故ニ其行ヲ梵行トイヒ書タ文字モ梵天ノ教タルト  
イフ事テ梵字ト云テム此梵天王ト申ハ即千皇産靈神  
ナナン事ヲカク申傳ヘタモノテムコレニヨツテ世人  
モ甚タ尊ミタル事テム龍樹菩薩ノ大論ト云モノニモ  
衆生常識梵天以梵天爲世間祖父爲世人説梵天也ト在  
ハ此トテム又夜見ノ國ノ傳ヘモアルコレハ彼國ノ辭  
テハ那落トイフテムソノ那落トイフハ地ノ底ニアル

獄屋トイフテムコ、カ御國ノ眞ノ傳説トチカツテ  
人間生涯善根ヲツメハ死シテ後天堂ト云テ則梵天帝  
釈ノ御許へ生ル又惡事ヲスレハ那落へ行キ底ニ居ル  
如ノアラフル神十王ト云ニ貴ラレルト云事テムニ  
コレラハ彼國ノ古傳説テ決シテ作りテ去タトトハ見  
ヘヌテムサレハサシモケ様ノ一ハ憎ミイフヘキコト  
テハナイテムサテ世々ノ婆羅門家ハ是等ノ古傳説ヲ  
承トシテ教ヲ立タ物テム其イツチ最初ニ教ヲ立タ婆  
羅門ヲ衛世師ト云テ是ハ釋迦ヨリ八百年前ニ出タ人  
シヤト云コトテム此衛世師ノ後ニ追々勝レタ婆羅門

○出定笑語

家カ出テ道ヲ弘クコトテ何レモ天ニ生スルコトヲ修  
シ教々物ニ其内ニ少シツ、立カタニ千カツタ所カ有  
テスヘテ九十五種ユルヲ佛法カラサシテ九十五種ノ  
外道トイウテム其千カフ所トイツハ其始メ何ノ事モ  
ナク欲界トイフ天カ有テソコニ梵天帝釈カマシマス  
取善ヲ修シ天ヘ生レヨフト修シ教々ル所ヲ其次ニ出  
スル婆羅門バモチツト其上チイハ子ハ行ル又ニ依テ  
其欲界ノ天ヨリハ上ニ色界トイフ天カ有此方ニ從ヒ  
道ヲ學フトソノ天ヘ生スルトイツテ道ヲ弘クテム所  
ヲ其後ニ出タ婆羅門ハ又其上チ一層言上ケテ真色界

トコロテハナイ此方ノ修シ得タル所ハ色界ノ上ニア  
ル空所ト云結講ナ所ヘ生スル法シヤトイツテ弘クメ  
サテ此様ニ其上チ上々トイ、上々々終ニ二十八天マ  
ア、上ケタ物テム然レモ實ハハツトシタル一テ皆  
ヨイカケンニイツタモノテム右ノ如ク生天ノ事チ才  
モトイツタルモノ故ニ已ニ悉多カ始テマツ跋伽仙人  
此ニ逢テ欲求何果ノシヤト問フタ所カ仙人トモカ答  
ハ爲欲求生天トハ答ヘタテムサテ此時悉多カ慕ヒ尋  
子タル阿羅邏仙人ト云カ立タル趣キハ二十八天ノ上  
ニ非想非く想天ト云天カ有トイツテ教ヘタモノテ是



モ此前一出タル爵階仙人トイフ婆羅門ノ無所有ト云  
入カ有ト云ツテ弘メテ不タル處へ出其上フモ一ツ  
越シテ非々想天ト云テカアルトイツタモノテムユ  
ヲノサマカ實ハ子供ノイタヲコツコヤラチスルヤウ  
ナ事テム儲又天竺ノ國風テトカク不思議奇妙ナカ  
スキテソノ世間ヲ教フルニモ彼不思議神通ヲヤラン  
テハ人カ信シナイカラ代々ノ婆羅門人ニ教授テモ  
スル者ハニ才夫ヲ修行シテヤルテムサテ夫ヲ神通テ  
イハハ甚タキハヨヒヤウナレト實ニハ幻術トモフ物  
ニ幻術トハマホロシノ術トイマテ狐ト狸トソテモ

ナイ物ヲウレト見セテ人ヲタブラカスト同じ術テム夫  
故コレヲ幻術トイフ近クイハバ手妻ノ大キイウカモ  
ノテユノ丁モ法華經ノ妙玄トイフモノニ如ク幻術在四術  
道幻作種々象馬瓔珞人物等無明幻出六道依正當知本自  
不有無明所為トアリ又円覺經ノ疏トイフモノニ世有幻  
法依草木等幻作人畜似往來動作之相須更法謝還成草木  
然諸經教幻偏多良以五天此術頗衆見聞既審法理易明ト  
アルヲヨクトツクリト考ヘルガヨイテムマツ釈迦ノ出  
又前天主ニモトカラ有タ教ノ趣キ婆羅門ノ学ビカタハ  
アラクコノ通りテム

扱悉多ハ右ノ阿羅邏仙人ニ逢テ生老病死ヲ断スルノ法  
ハイカニト問フタ所カ阿羅邏カ答ヘテ衆生之始始從於  
冥初後於冥初起於我慢從於我慢生於痴心從於痴心生於  
深愛從於深愛生貪欲瞋恚等諸煩惱於是流轉生老病死憂  
悲苦惱トイフ悉多マタ問フニハ其説ヲキテ生死ノ根  
本ハ解シ得タルガワレヲ断絶スルコトハイカニトイヘバ  
仙人ガコノ生死ノ本ヲ断セシト欲スルナラバ出家シテ  
修持戒行謙早忍辱住空閑處修習禪定離欲惡不善法離於  
種種相入非想非々想處斯處名為究竟解脫是諸學者之彼  
岸也汝若以斷於生老病死之患マサニカク如キノ行ヲ

修學スベシト論シタテム。悉多ハ其説ヲ聞テマタイフニ  
ハ。非想非々想處為有我也。為無我也。若言無我不應言非想  
非々想處若言有我。我為有知為無知若無知則同木石我若  
有知則有深著。有深著則非解脫一切尽捨是則名為真解脫  
トイハレテ阿羅邏仙人モヒシトワマツテ默然ハレテ居  
タト有マスガヨク思ヘバコノ悉多ガイツタ趣ハタバ糸  
才ニマカセテイワタテ阿羅邏ガ説ヨリハ大キニ毎理  
テム。夫ハイカニトイフニ阿羅邏ガイツタル趣キハ欲惡  
煩惱スベテ一切ノ善ヲ又ドモヲ離レテ善心ニ皈スル  
コト云テワヌ善心マデテ止メヨトイフノ説テハナク故

ニ非想トイフガ欲悪ハ想ハヌトイフ了非々想トイフハ  
世ノ為人ノ爲ニナル善事ヲバ想ハヌデハナイフレハ想  
フト云心デ非想非々想天ノ法トイツタモノデコノ場  
へ学ビツケタ者ハ學問ノ彼岸ニ到ツタノデ是ガ解脱ト  
イフモノジヤトイフノ心デム。隨分忬ナコトデオモシロ  
イデム。マタ悉多ガ言ブレハ無理ジヤト申スワケハ。非想  
非々想處。爲有我也。爲無我也。言無我不應言非想非々想處  
トイツタガ是ハ知レタ了デム。ナゼトイフニ。非想非々想  
トイフワケハ右申シタル如ク惡欲不善ナル了ハ思フマ  
イ善キコトヲバ想ストイフノ義ジヤニヨツテ爲有我也

爲無我也ト問フカモノハナイ又若言有我我爲有知務  
無知若無知則同木石トイツタモシレタ事テ非々想ト  
イフカラニハ有我トイフ義ナル事論ハナヒ有我トレ  
ハ有知ハ是又論ハナヒ夫ヲ何モ無知則同木石ナト  
口オハクシヤヘル了ハナイテム若知則有染著有染  
著則非解脱トイツタハ則悉多カ趣意了是ハ何ノ事モ  
ナク阿羅邏カ非々想ト云テ善事ヲハ思ハヌトイフワ  
ケテハナイ夫ハ想フト立タ筋チ氣ニ入ラヌカライヒ  
出シタ事テオノレハ生老病死ヲ遭レタヒトイフテ親  
妻守ヲモカヘリ見ス惡事ハモトヨリ露聊モ善事ヲサ

へ一想フマヒトイフ子シケ心カライヒ破ツタモノテ  
ム又能一切盡捨是則名爲眞脱トイッタカ此通ニ一切  
盡ク想トイフ事ヲ公ヌテ果テレマツタハ如何ニ  
モ悉多カイフ通リソレハ眞ノ解脱テハ有マセシカク  
天地ノ間ニハテハ生テ居ルウチハモヨリ疾  
テモソレハ決シテ出来ヌ事テム出キヌ事故サヤウニ  
心懸ケテ親妻子ヲサヘヌテ山ニ入タルコノ男カ曰ハ  
此通リ立派ニシヤヘルケレ凡己ニ今阿羅ハニイッタ  
言ニモ無知則同木石トイヒ又一切ヲ想ヒテ捨ハテヌ  
カラマツ阿羅ハカ説カ氣ニ入ヌトイフヲモヒモアリ

サテ生老病死カコハヒモノシヤト云思モアリ又此次  
ノ會ニ出マシ此阿羅ハカ許ヲ去リ修行スルトニ物サ  
へ喰ハスリキンテ見タカヒモシクテタマラス既ニ死  
サウニナツタトニ牧牛女ニ乳ヲモラツテシヤフリ夫  
故命ヲ助カツタテムサスレハヒモシイトイフ想モナ  
クナリヤセンサテ年カヨツタレハシワクク坊主ニ成  
居テ其死ヌ時モアライタヤアラ昔シヤトウメキチラ  
シテ死オツタテム何ト是カ生老病死一切ノ想ヲ盡ク  
捨タト云者カトウシテ棄ラル、モノカステラレヌハ  
ツ意ラルヌ又ワケハ天津神ノ皇産靈御靈ニヨツテ此天

○出定笑話  
四十五八

下ニ生レテハトシニ捨ヨフノハラヒ落サウノト  
アセリテ馳ツテ廻リテモ生老病歟ノ四ツハオツコチ  
又テム然ルヲ悉多カ心得チカヒヲ致シテア、大ヘラ、  
ホウ成カナア、クソタワケ成カナケツノ毛ヘ火ノ舟  
タヤウニ夫チイヤカリアウテサワヒタカヤツハリ死  
シタカ其サマヲツラ々念ヘハ一寸ト俗ノ諺ニイウニ  
ツ長屋ノ左ニ兵衛トヤラカ四國ヲ巡ツテ四國ヲ出ラ  
レスマハリマワリテ猿ト化タト云ヤウナ形チテ其意  
チエタ説ハハ只世ノ愚人原ヲ惑カス種ト成タノミノ  
一テムナホ追々ワカルテム

サテ悉多ハ阿羅々仙人ヲ調伏シ夫ヨリ伽闍山苦行林  
中ニ入り尼連憍河ト云川ノ側ニ静座觀慾ノ苦行ヲ修  
シ日ニ一麻ヲ食シ或ハ一米ヲ食シ或ハ二日又ハ七日  
ニ一麻米ヲ食スユ、ニ彼王師カ遣レ置タル橋陳如ヲ  
モ悉多ト共ニ苦行ヲ修シ人ヲ遣シテ王師及ヒカノ長  
臣ニ悉達カ所行ヲ具ニイヒヤリケルニ王師ト長臣ハ  
國ニ還リ悉多カイヘル言并ニ其苦行ノ事ヲ淨飯王ニ  
イヘハ淨飯其言ヲ聞テ身ヲフルヒ身ノ毛ヲ墜テ聲モ、  
絶々ニイヘルハ悉多ハ是我カ性命ナリ然ニ汝等今渠  
ヲ伴ヒ歸ラス我性命イカニシテ存ヘヨフソト云片ニ

定長語 四十九

王師ノ悉多カ志ノ堅固ナルヲ大山ノ廻ク中ノ移動シ  
難キ事ヲイヘハ淨飯王モサテモアラ子ハ衣食住ノ具  
一切ヲ多ク車ニ積テ彼車匿ニ申ツケ汝コレヲ悉多ニ  
アタヘテ供養シ之少事ノナキヤウニ致セ盡タランニ  
ハ又請ニヨコセヨトステ送り遣タテムサテ車匿ハ悉  
多カ修行スル處ヘ行テ其形ヲ見タル處カ骨ト皮計ノ  
ヤウニ瘦サラホツテ血脈モ悉ク現ハレテ居ル程ノイ  
上ヘ車匿ハ涙ヲ流シ淨飯土カ日夜ニ歎キ悲ミ忘ルハ  
事アタハスコレヲノ物ヲ送レルヲ述タル所ニ悉多  
カイフニ吾ハ父母ニ逆ヒマタ國ヲ捨テ遠クコ、ニ在

ルコハ致道ヲ求ンカ爲ニトテノ事也何カ故ニカ、ル  
品々ヲ受ヨフソト嚴シク云カラ車匿カ思ニハ是テハ  
此品々ヲ受ハスマヒト悟リテ右ノ品々ヲハ悉ク淨飯  
王ノ許ヘ反シ送リテ吾一人ハ彼ノ憍陳如ヲト共ニ麓  
ニ在リ悉多カ苦行ヲ見ツイタト云事テムコレ程ニ父  
ノ厚キ志ヲ無ニシカヘシヤルトハサテハ悉多ハ心ナ  
キ者テムクハスンハタワイテモヨイカラ受ケ置キ父  
ノ志ヲ慰ルカ人ノ子タル者ノ道テムユン十二瘦ソラ  
ホツテ居カラサソカン心中ニオヒテハ食タカツタテ  
アラフテム所ヲ一旦何モ入ラヌ食ヒ物モ喰マイト云

出シタル我慢ヲ弘テノ事トミエル是カマコトニ諺ニ  
云渡我慢テムサテ悉多ハ早ク婆羅門ヲカ説キ看破リ  
テアルニ座禪觀想ニ身ヲ苦メタハイカニト云ニマツ  
彼念ヒ拯タル生老病死ヲ解脱シカツ神通ヲ大キニ修  
シ得テ夫ヲ以テ婆羅門トモテ伏サセンカ爲テムソレ  
ハスナハ千大論ニ若不行苦行而呵言非道者無人信受  
故自行過於餘人ト見ヘ又西域記ニモ太子思惟ニ理爲  
伏外道節麻米以支身六年トアルハ此事テムサヤウニ  
多道ヲ伏サセントスルハイカニトイフニカノ外道ノ  
輩ハ國ハ二普ク信シラレテオル者故マツ其外道々ニ

伏サセテ道ヲ説カ子バ弘マラヌカラノコトデム。マタウレ  
ヲ伏サスルニ神道ヲ以テスルハイカニトイフニウレモ  
神通トイヘバ大ツウニ聞ユレトモ先ニモ申シタル如ク。  
實ハ幻術トイフモノデフノ幻術トイフハカノ円覺經ノ  
疏ニ諸經教幻偏多良以五天此術頗衆見聞既審法理易明  
トアリテ五天竺トモニコノ幻術ガ頗ル多キコトテ衆人  
見ナレ聞ナレテオルコト故コノ術ヲ行テウノ奇怪ニ目  
ヲ驚カシ心ヲ惑ハシテ説ツケルト人ガ信ヲ發シテヨク  
會得スル故コレデ人ヲサトシタモノジヤトイフノ義テ  
釈迦ヨリ前ニ出タル婆羅門トモガ皆是ヲ以テ人ヲ服サ

セタモノデム。故ニ釈迦モコレヲ專ニヤラレデハ。ワノ道  
カ行レヌニヨリテ六年ノ修行ニコレヲ第一ト修行シタ  
モノデム。ソレハスナハチカノ龍樹菩薩ガ著シタル大論  
ニモ鳥無翅不能高翔。菩薩無神通不能隨意教化衆生トア  
ルコノ又ヲ考ヘテ釈迦法師ガ神通ヲ行ツタル故ヲシル  
カヨイデム。扱マ々神通ノ出来ル觀相ノ仕法ハコレモ大  
論ニ菩薩爲衆生取神通現諸希有奇特之事令衆生心清淨  
何以故若無希有事不能令多衆生得度菩薩作此念已繫心  
身中虚空滅衆重色相常取空輕相發大欲精進心智慧籌量  
心力能養身未籌量已自知心力大能養其身譬如學辯常壞

色衆重相常修輕空相是時便能飛ニ者亦能變化諸物令地  
作水水作地風作火火作風如是諸大皆令轉易令金作瓦礫  
瓦礫作金如是諸物各能令化變地爲水相常修念水令多不  
復憶念地相是時相如念即作水如是等諸物皆能變化ト有  
ルコレヲヨク考ヘルガヨイデム。ナレト手妻ノ大キイモ  
ノナル幻術ニ相違ナイデム。マタ右申ス通り釈迦以前ノ  
婆羅門トモ何レモ々コノ幻術ヲ以テ道ヲ弘メタル所ヘ  
其世ノ人ノキ、知ラヌ佛道トイフヲ作爲シテ又々同  
ジ神通ヲカリテヒロメヨフト爲ル故以前トハ事カハ  
リ大キニハナレタワザラシテオドカシタモノデム。コレ



モ大論ニ種々諸物皆能轉變外道輩轉極久不過七日諸佛  
及弟子轉變自在無有久近トアルハコノトデムサテ釈迦  
ガ神通自在ナルトハ諸經ニ委ク見ヘタル中ニ瑞應本記  
經トイフニツノ状カ言ミジカニイヒトワテアリマスガ  
ソレハ所欲如意不復用思身能飛行能分一身作百作千至  
億万無數復合為一能徹入地石壁皆過後一方現俯沒仰出  
履水行虛身不陷墜坐臥空中如飛鳥翔之能及天手捫日月  
涌身平立至梵自在眼能徹視耳能洞聽意預知諸天人龍鬼  
神岐行蠕動之類身行口意言心所欲念悉見聞知トアルカ  
ライカニモ勝レタイデアツタテム此神通トイフモノハ

大論ニ有通り觀想ニ身ヲ苦メテ能修行スレハ出來ル  
トト見ヘルテム夫ハトウシテ出キルト試ニイハ人  
ノ通ハ又深山ユウコシナトニ鬼魅魍魎トカ天狗トカ  
云類ノ奇シキモノ多カレハ修行スルウチニツヒ夫  
ラノ物ト馴交リ又ソレヲ使フヤウニモナルト見ヘ  
ルテムソレハ先日申タル釈迦カ始テ跋伽仙人カ所ヘ  
尋タル時諸ノ鳥獸カナレ住テ飛去ラスニオツタト有  
テ知ルカヨイテム御國ノ古ニカ、ル事ノミヘタルハ  
書記ノ皇極天皇ノ御卷ニ高麗ヘ遣シ置レタル鞍作得  
志ト云者彼國ニ於テ虎ヲ友トシ其幻術ヲ學ヒ取リア

ルヒハ枯山ヲ變シ青山トナシ或ハ地ヲ水ニ變ニ此ノ  
外ニ種ク奇シキ術ヲ覺ヘタル所カ虎ノ其針ヲ授ケ云  
ニハユメ々人ニ知ス下勿レ是ヲ以テ病ヲ治セタナラ  
ハ愈ヌト云フ下ハ有マイトイツタテムソコテ得志カ  
虎ノ教ノ如ク爲テ治スルニ皆ク驗カ有タト云フテム  
然ルニ得志カ其針ヲ大切ニシテ柱ノ中ニ隠シオケタ  
ル處カ後ニ彼虎カトウ思ツタカ其柱ヲ折リ針ヲ取去  
ト云フカアルコレオ以テ考ルニ釋迦モ虎カ何カ  
ニ針ヲモモラツテ持タト見ヘルテム扱佛法ノ御國ハ  
渡リ御國ノ法師モ其幻術ヲ受領キヤツタモノテム

ソレハ菅原寺ノ行本藏山ノ傳教高野ノ弘法淨藏法師  
其外イクラモアルテム近クハ御嶽ヲヒライタト云  
僧ヤ金毘羅信心シヤノ或ハ道ヲ信心シヤノト云軍カ  
マノアタリ神通ラシヒ事ヲヤルヲ見レハ隨分苦行オ  
サヘスレハ出キル事ト見ヘルテム然レハ釈迦程ニハ  
ナレク業ヲセヌノハ修行カダランテアノ様ニハ出キ  
ヌカラ若クハ出キテモ今ハ幻術ト云フカシレテキタ  
依リテ縛ラレルカ怖サニハナレタ下オハマヌソカ何  
レニモ溪山幽谷ヘ行テ難行苦行オシテ年月ヲカサ子  
一心ニ觀想ヲスレハ六論ニアル如ク出來ルニ違ハナ

キト見ヘルテム又カノ役小角十トノ輩ハ前鬼後鬼ト  
カ云モノヲ使ツタトアルカラ本ヨリ狐ツカヒト同シ  
事又阿部清明ハ式神ヲ使ヒソレテ不測ヲ見セタト有  
マスカコノ式神ト云フハ死人ノ靈ヲ使フトミヘルカ  
ヤウハ業スル輩昔ノ僧トモハモトヨリ外ニモ多ク有  
マシタカ其ウチ法師ノシサマカ憎ヒテムソレハ此  
ノ書ヲ讀テミルニ高貴ノ御カタ御懷妊トカイサカ  
御不快トテモイフト大カタハ物恠カツソコテイツ  
モ法師トモニ仰セ舟ラレテ祈ヲナサレソレテ御快氣  
有タ所ヲ見レハ法師共己レソノ物恠ヲツケマイラセ

其祈ヲイタシ私セントノシワサテム夫ニ違ヒノナヒ  
證據ハトカク上様ニハカリ物恠ノ崇リカ有テトサマ  
ニハトントナヒテムコ、ヲ以テ坊主凡ノ爲ル事ナル  
ヲシルカ宜シヒテムコレハ今世ニモ僧ヤ修驗者ナト  
云奴ラノコノ謀事ヲ行ヒ己レ狐才付ケ其狐ヲオトス  
祈禱ノ受合ヒ物取ル者モマ、アルテムコレラモヤハ  
リ幻術ノ流レテ多クハ佛法ヨリ傳ヘキタ事テム然レ  
モ是ヲ神通伝ユヘ何カ香ハシケニ思ヒオル人モアル  
ケレモ元來邪法ユヘ上ノ御咎メモアリテ縛ラレモス  
ルト頓ト御通モ何モ知ラヌ常ノ人ト同シ様ニイクラ

モナク縛ラレテ既ニ山伏ノ方ナトテハ神受大菩薩ト  
カ何トカ云テサワク役ノ行者テサヘ色々オカシナ事  
ヲ致シモ天皇ノ勅命ニハ何ノ手モナク縛フルテ伊豆  
ノ嶋ヘ流サレチヨ々ユ成テオツタテム是ヲ元享釋書  
ナトニハ勅命ノ下テ小角ヲ捕ヘヨウトシタル所ニ空  
ヘ上リテ飛去タル故捕ヘル事ナラスヨツテ其母ヲ捕  
ラレ繯ツタニヨツテ小角ハ是非ナク捕ヘラレタナト  
イフテアルミナソラ言テムコリヤトウシヤトイフ  
ニタカカ凡人ノ爲ニ役セラレテ使ハレル様ナ前鬼後  
鬼クライノ鼻キ妖鬼ノシツサ故述モ其人ヲ救フフ程

トモナクマタ憔悴リ深ク威徳ノアル人ニハ手モ足モ出  
ル事シヤナヒテム  
サテ悉多ハカク座禪觀想ヲシテ神通ノ修行工夫ニ苦行  
ヲ致シツ、月オ經年オ經テ殆ント身モ枯木ノ如クニ  
疲衰タカ老病死苦ハ解脱スルヲ能ハス只修シエタル  
者ハ神通ハカリコ、ニ思フヤウハ我カハカリノ苦  
行ヲシテ己ニ六年垂トスルカ未タ生老病死ヲ解脱ス  
ルノ道ヲ得 サスレハ眞ノ道テハナカツタト見ヘル  
カラ其ハ昔閻浮樹ノ下ニ於テ傷虫ノ鳥ニ啄ル、所オ  
見テ思惟シタリシ趣ニ不知事ヲサトリ彼時ノ思惟ニ

定業語  
解六

欲才離ルテ寂靜ナラン事ヲ想タノカ最真正ノコト有  
ケルヨト言タテム此語ニ依テ考フレハカノ生老病死  
ハ解脱スル事ナラヌ物シヤト云事ヲ此片始テ發明シ  
タトミエルテムアノロマナルカト沙婆悉多其願愚  
成心ヨリ解脱シカタク生老病死モ修行ヲスレハ免レ  
ラル、事ノ様ニ長々ノ年月オモシヒ念ヒモシテ  
タカ更ニ解脱カ成ンテ年トルマニ、身ノ様子モ千  
カツテキタカラソコテ始テ目カ覺テ離欲愛寂靜ノ道  
ヨリ外ニ修シエラレヌ物ト珠數ヲ投タ物テム是カ  
口マテナクテ何テ有マセウ皆離欲愛寂靜ヲ修シ得タ

ハカリテハ是マテノ婆羅門仙人凡カヤツタ所トサ  
シモ替ル一モナク我慢オヤツテ物食ハチンタカヒモ  
ナレカラナチ負オシヒ才思ニハ今我若以此身而取道  
以諸外道常言自餓是涅槃因我當受食然成道ト念ヒ定  
メタト有テム此文ニ涅槃トアルハ死ル所ノコトテム  
迦カ死ル時ノ事ヲ記シタル經ヲ涅槃經ト云モコレ故  
ノ事又釋迦カ死ル時ノ像ヲ涅槃像トイフモ此故テム  
シヤニヨツテ此文ニ子ハンノ因ト云ハヤカテシヌル  
トイフノ義ニナルテムマタ取道トアル道ニ當成道ト  
アル道モ道トイハコト々シヒカ悟ノ道才得タリト

イフテ此苦行ヲ止ルイチカヨフニ重クロシクイツタ  
ノミノ事ヲサシモ深イワケハナイテム佛經ヲヨム人  
ハカ、ルオトシテクハヌ様ニヨク前後ヲ考へ通シテ  
文ニ抱以義ヲトルカ宜シヒテム扱一体ノ語ノ義ハ我  
モシ瘦身ヲ其マ、ニユノ苦行ヲ止タナラハ彼諸ノ  
婆羅門共カソシツテソレ見タカ爲トケモナラヌトテ  
爲ア自カスキテ餓サラホツタカソレカ困トナツテ命  
ハ灰ルテアラフトイハウカラマツ食ヲ喰テチカラナ  
ツケノチニ此苦行ハ止メ生死解脱ノ道ヲ得タリト披  
露マルカヨイト念ヒ定タト云義テムコレカマケオシ

ミテナクテ何テ有マセウ人ノ喘ヤアトサキニ考ヘテ  
此纏ヒ已カ今マテノ阿房ヲ文ラントスル思念カアル  
コナ佛ノアルモノカ物食ンテハヒモシクタマラス  
マタ生老病死ヲ解タツスルイモナラス有体ニスレハ  
ヨキニコレカ憎イテムサテ右ノ如ク念ヒ定メテ座ヨ  
リ起テ河ニ入り垢タラケシラメタラケノ骸ヲ洗ヒ落  
シ諸河ヨリ上カラフトスル所ニ身體疲瘦不能出トア  
リテ止リエススフクメアフナク土左衛門ニナラフト  
ノイルユヘ人ノ樹ノ枝ニツラマヘテ拳出ノヤツタテ

出定集語  
拜八

扱マツ川ヨリ上ケテモラツタ處カ垢ハオチモシタラ  
フカ彼ノ水文ニモ消瘠皮骨相連血脈悉現凡若枯木  
ル如ク眼ハ夕ホミ腹ハ背ハヒツ、キアハラ骨の出  
ル類ハコケテ頭トイハ栗ノイカヲコヘ壺ハオツコ  
トシタ辰ヤウテイヤ其形ハ見ラレタモノシヤナイコ  
、ニ於テ一人ノ牧牛女ノ名ハ難陀波羅伝カコレヲ見  
不假サヤル方ナカリシト見ヘテ乳味ヲ取ツテクレタ  
テムソコテ悉多ハソノ施ヲ受ケテ甚タ悦ヒヨク々ウ  
レシクアツタト見ヘテソノ女ニ對シ禮ニ咒願ヲトテ  
ハタテム

咒願トイフハ

其咒ノ趣ハ今所施食欲今食者得充氣力當使施家得瞻  
得喜安樂無病終保年壽知惠具足ト云々テムユノ咒ノ  
義ハ今コノ吾ニ施メクレル所ノ食ハ食スル我カ身ノ  
氣カラ充シムルハカリテナク施テクレタ功德ニヨツ  
テソナタモ喜ヲ得テ安樂無病テ一生無難ニ壽ヲ保  
千智惠モ具足スルテ有フソト云ノ意テムキツイ禮ノ  
云ヤウテム嚙テ蠅ヲ追ヤフニナツテヒモシクテタマ  
ラスヒタルキ時ニマツイ物ナシ馬ノ糞テモ食フ氣ニ  
ナツテイル功ヘカ、ル馳走ニ預タル故悦ヒサウナモ

此  
出  
後  
集  
書

五  
十  
七

ノテム今ノ世ニモタマ々ハ坊主ニ一文ヤルトコノ文  
唱ヘユク者カアルハコノ故テム但シユ、二憚ヒ事  
人有ハヒモシヒ所ヘウマノ物ヲ下サレ有難イナラ有  
カタテヨウコンスハ夫ニ又ヘラスクノ負オシ  
チ云オツタテム其言ニ我爲成熟一切衆生故受此食ト  
イッタテムコレカホニイヤラシイト云ノテムカク  
イヒツ夫ヲ受ケ食タ所カ身體丈夫ニナリ大キニ氣  
カヲエタテムタ、シ右ノ如ク川テアフカラシテイル  
所ヲ人カ憐ンテアケテヤツタテ天神カ禁出シタル  
シヤト言又ヒモシカッテイルヲ不便ニ思イ牧牛女カ

乳糜ヲクレタノヲ淨居天トイフ天カ此女ニ勸テクレ  
サシタノシヤトイッテ是ハカリテナク何モカモ實事  
ヲハ諸天カカウシタノ淨居天カソウシタノト奇妙不  
測ニ託メ重クルシク記シ有カミナ跡カライヒソヘタ  
事テ取ニ足ラヌ偽リテムソレホト諸天カツキマトツ  
テイルナラハ悉多ニコンナタハケヨ書サマヌカヨヒ  
テムソリヤ諸天テモナイトイフテム  
カクテ悉多ハ畢波羅樹トイフ木ノ木ナル石上ニ座ヲ  
受胎經ニハ閻浮樹トアリ又一ニハ菩提樹トモアリ  
我道不成ンハコノハ起マイト想ヒ定メ彼ノ乳糜ヲシ



ヤフリツ、ソコニ四十八日結跏趺座シタト云フテム  
コ、ニモ又大キナ嘘カシタ、カアルソレハ悉多カカ  
ク人如クツ、シリト居ツタル故其徳ノ重キ故ニ大地  
カ勝ル丁能ハシテメリカ震動シタ所カ其響テ大地ノ  
下ニイル旨聳龍ノ両目カ開キ明カニサリ過去七佛ノ  
出世シタル時モ是瑞應カ有タニヨリテ是ハ何ソ佛ノ  
出世ト念ハル、ト云テ地ヨリ湧出ノ悉多カ足ヲ戴テ  
偈ヲ以テ讚タトイ、又其通大地カ震動シ悉多カ眉間  
ヨリ大光明ヲ放タニ依テ六天ノ魔王カソレヲ見テ是  
ハ佛ノ出世ト見ヘルカ夫テハ吾カ魔道ヲ行フ妨ケト

ナル事シヤト云テ吾配下ナル數千ノ魔トモニ申ツク  
テ夕自モ色々ト悉多カ成道ヲ妨ントシタレトフ々  
悉多ニ降伏セラレタフコノ餘ニモ仰山ナル偽ハカリ  
云テアルカミナ釈迦ニ重ミヲツケヨフトテ云夕事テ  
一ツモトルニ足ルモノテナキテム



出定笑語 終

○出定笑語

